

# SPARC Enterprise

## T5440サーバ

### インストール・セットアップガイド



C120-E510-02





SPARC Enterprise™  
T5440 サーバ  
インストール・セットアップ  
ガイド

---

本書には、富士通株式会社により提供および修正された技術情報が含まれています。

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されません。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および / または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、一般ユーザーからのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun™、Sun Microsystems™、Sun のロゴ®、Java™、Netra™、Solaris™、Sun StorageTek™、docs.sun.com<sup>SM</sup>、OpenBoot™、SunVTS™、SunSolve<sup>SM</sup>、CoolThreads™、J2EE™ および Sun Fire™ は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. またはその子会社の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

SSH は、米国およびその他の特定の管轄区域における SSH Communications Security の登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー・インタフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限り、このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われぬものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のものと第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われぬものとします。

原典： SPARC Enterprise T5440 Server Installation and Setup Guide  
Manual Code: C120-E510-02EN



# 目次

---

はじめに vii

設置の準備 1

SPARC Enterprise T5440 サーバの概要 1

必要な工具および機器 2

設置の概要 3

    オプションのコンポーネントの取り付け 5

配線に関する注意事項 5

スライドレール構成部品の概要 7

ケーブル管理アームの概要 8

ラックの互換性に関する要件 9

安全のための注意事項 10

ESD に関する注意事項 11

SPARC Enterprise T5440 サーバの取り付け 13

ラックのスライド構成部品の取り付け 14

    ▼ サーバに内部レールを取り付ける 14

    ▼ ラックに搭載する位置を決める 16

    ▼ キャビネットにスライドレールを取り付ける 17

キャビネットへのサーバの取り付け 19

- ▼ キャビネットにサーバを取り付ける 20
- ▼ スライドレールの動作が適切か確認する 21
- ケーブル管理アーム (CMA) の取り付け 22
  - ▼ CMA サポート支柱を取り付ける 23
  - ▼ CMA を取り付ける 23
- サーバケーブルの接続 26
  - ▼ サービスプロセッサのシリアル管理ポートを接続する 26
  - ▼ サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを接続する 27
  - ▼ Ethernet ネットワークケーブルを接続する 28
  - ▼ AC 電源ケーブルをサーバに接続する 28
  - 背面パネルのケーブル接続に関する参照情報 29
- CMA を使用したケーブルの管理 30
  - ▼ CMA にサーバケーブルを固定する 30
- システムの電源投入 31
  - はじめてのシステムの電源投入 32
    - ILOM システムコンソールの概要 32
    - ILOM サービスプロセッサの概要 33
    - ▼ はじめてシステムの電源を入れる 33
  - Solaris OS のホスト構成に関する参照情報 36
- サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを使用可能にする方法 37
  - ▼ DHCP を使用して、サービスプロセッサのネットワーク管理ポートをネットワークで使用可能にする 38
  - ▼ 静的 IP アドレスを使用して、サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを使用可能にする 39
- サービスプロセッサへのログイン 39
  - ▼ シリアル管理ポートを使用して、サービスプロセッサにログインする 40
  - ▼ サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを構成する 41

- ▼ ネットワーク管理ポートを使用して、サービスプロセッサにログインする 44
- 一般的な処理でのサービスプロセッサの使用 45
  - ▼ システムの電源を入れる 45
  - ▼ システムコンソールに接続する 47
  - ▼ システムの正常な初期化を実行する 48
- Solaris オペレーティングシステムの起動 49
  - ▼ Solaris オペレーティングシステムを起動する 49
  - ▼ 起動時に Solaris オペレーティングシステムが起動しないようにする 50
  - ▼ システムをリセットする 50
  - ▼ システムの電源を再投入する 51
- ファームウェアの更新 53
  - サービスプロセッサおよびサーバのファームウェアの更新 53
  - ファームウェアの更新 54
    - ▼ ファームウェアを更新する 54
- 起動デバイスの選択 57
  - 起動デバイスの選択 57
    - ▼ 起動デバイスを選択する 58
- 索引 59



# はじめに

---

このマニュアルでは、SPARC Enterprise™ T5440 サーバの設置に役立つ手順、基本的な情報、および参考資料について説明します。

このマニュアルの設置に関する手順は、システム管理者が Solaris™ オペレーティングシステム (Solaris OS) を使用した経験があることを前提としています。

---

**注** – ハードドライブ以外のすべての内部コンポーネントの取付けは、認定された保守技術者のみが行なってください。

---

---

## 安全な使用のために

このマニュアルには当製品を安全に使用していただくための重要な情報が記載されています。当製品を使用する前に、このマニュアルを熟読してください。特にこのマニュアルに記載されている [xiv ページの「安全上の注意事項」](#) をよく読み、理解したうえで当製品を使用してください。また、このマニュアルは大切に保管してください。

富士通は、使用者および周囲の方の身体や財産に被害を及ぼすことなく安全に使っていただくために細心の注意を払っています。本製品を使用する際は、マニュアルの説明に従ってください。

---

# マニュアルの構成

このマニュアルは、次の章で構成されています。

- **設置の準備**  
サーバの設置の概要について説明します。
- **SPARC Enterprise T5440 サーバの取り付け**  
サーバのラックへの取り付け手順について説明します。
- **システムの電源投入**  
サーバの構成と電源投入手順について説明します。
- **ファームウェアの更新**  
サービスプロセッサファームウェアおよびシステムファームウェアの更新手順について説明します。
- **起動デバイスの選択**  
起動デバイスの選択手順について説明します。
- **索引**  
必要に応じて読者がこのマニュアル内の項目を容易に検索できるように、キーワードおよび対応する参照先ページ番号を示します。

# 関連マニュアル

SPARC Enterprise シリーズのすべてのマニュアルは、次のウェブサイトで最新版を提供しています。

国内

(<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>)

海外

(<http://www.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>)

| タイトル   | 説明  | コード       |
|--|---|-----------|
| SPARC Enterprise T5440 サーバ<br>はじめにお読みください                                  | サーバの初回電源投入および起動のために<br>必要な簡易手順  | C120-E504 |
| SPARC Enterprise T5440 サーバ<br>プロダクトノート                                     | 製品の更新および問題に関する最新情報  | C120-E508 |
| Important Safety Information<br>for Hardware Systems                       | SPARC Enterprise シリーズのすべてのサー<br>バに共通する安全性に関する情報                                 | C120-E391 |
| SPARC Enterprise T5440 サーバ<br>安全に使用していただくために                               | このサーバの安全性および適合性に関する<br>情報   | C120-E509 |
| SPARC Enterprise/<br>PRIMEQUEST 共通 設置計画マ<br>ニュアル                           | SPARC Enterprise および PRIMEQUEST<br>を設置するための、設置計画および設備計<br>画に必要な事項や考え方           | C120-H007 |
| SPARC Enterprise T5440 サーバ<br>設置計画マニュアル                                    | 設置計画に関するサーバの仕様  | C120-H029 |
| SPARC Enterprise T5440 サーバ<br>インストール・セット<br>アップガイド                         | ラック搭載、ケーブル配線、電源投入、お<br>よび構成に関する詳細情報   | C120-E510 |
| SPARC Enterprise T5440 サーバ<br>サービスマニュアル                                    | 診断を実行してサーバの障害追跡を行う方<br>法、およびサーバの部品を取り外して交換<br>する方法                              | C120-E512 |
| SPARC Enterprise T5440 サーバ<br>アドミニストレーションガイド                               | サーバ固有の管理作業の実行方法   | C120-E511 |
| Integrated Lights Out Manager<br>2.0 ユーザーズガイド                              | Integrated Lights Out Manager (ILOM) 2.0<br>ソフトウェアで管理されるすべてのプラッ<br>トフォームに共通する情報 | C120-E474 |
| Integrated Lights Out Manager<br>2.0 補足マニュアル SPARC<br>Enterprise T5440 サーバ | このサーバで ILOM 2.0 ソフトウェアを使<br>用する方法   | C120-E513 |

| タイトル   | 説明  | コード       |
|--|---|-----------|
| Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド                                 | ILOM 3.0 の特徴および機能に関する情報   | C120-E573 |
| Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 入門ガイド                                 | ネットワーク接続、ILOM 3.0 への初回ログイン、およびユーザーアカウントやディレクトリサービスの設定に関する情報および手順    | C120-E576 |
| Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド                   | ILOM Web インタフェースを使用して ILOM3.0 の機能にアクセスするための情報および手順                  | C120-E574 |
| Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド                             | ILOM CLI を使用して ILOM 3.0 の機能にアクセスするための情報および手順                        | C120-E575 |
| Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 SNMP および IPMI 手順ガイド                   | SNMP または IPMI 管理ホストを使用して ILOM 3.0 の機能にアクセスするための情報および手順              | C120-E579 |
| Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.x 機能更新およびリリースノート                        | ILOM 3.0 のリリース以降に行われた ILOM ファームウェアのエンハンスメントに関する情報                   | C120-E600 |
| Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル<br>SPARC Enterprise T5440 サーバ | このサーバで ILOM 3.0 ソフトウェアを使用する方法                                       | C120-E587 |
| PCI ボックス インストール・サービスマニュアル  | PCI ボックスを SPARC Enterprise T5120/T5140/T5220/T5240/T5440 サーバに設置する手順 | C120-E543 |
| PCI ボックス プロダクトノート  | PCI ボックスに関する重要な最新情報   | C120-E544 |

**注** – 本製品の最新情報はプロダクトノートで確認してください。プロダクトノートはウェブサイトだけに公開されています。

---

# UNIX コマンドについて

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成などに使用する基本的な UNIX<sup>®</sup> コマンドと操作手順に関する説明は含まれていない可能性があります。これらについては、以下を参照してください。

- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル
- 下記にある Solaris<sup>™</sup> オペレーティングシステムのマニュアル  
(<http://docs.sun.com>)

---

## 書体と記号について

| 書体または記号*  | 意味                                     | 例   |
|-----------|--|---|
| AaBbCc123 | コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。 | .login ファイルを編集します。<br>ls -a を実行します。<br>% You have mail. |
| AaBbCc123 | ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。    | % <b>su</b><br>Password:                                |
| AaBbCc123 | コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。          | rm <i>filename</i> と入力します。                              |
| 『 』       | 参照する書名を示します。                           | 『Solaris ユーザーマニュアル』                                     |
| 「 」       | 参照する章、節、または、強調する語を示します。                | 第 6 章「データの管理」を参照。<br>この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。          |
| \         | 枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。 | % <b>grep</b> `^#define \<br>XV_VERSION_STRING`         |

\* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

---

# シェルプロンプトについて

| シェル                         | プロンプト                |
|-----------------------------|----------------------|
| UNIX の C シェル                | <i>machine-name%</i> |
| UNIX の Bourne シェルと Korn シェル | \$                   |
| スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)      | #                    |
| ILOM のサービスプロセッサ             | ->                   |
| ALOM 互換シェル                  | sc >                 |
| OpenBoot™ PROM ファームウェア      | ok                   |

---

## 警告表示について

本書では以下の表示を使用して、使用者や周囲の方の身体や財産に損害を与えないための警告や使用者にとって価値のある重要な情報を示しています。



---

**警告** – 正しく使用しない場合、死亡する、または重傷を負うことがあり得ること（潜在的な危険状態）を示しています。

---



---

**注意** – 正しく使用しない場合、軽傷、または中程度の傷害を負うことがあり得ることと、当該製品自身またはその他の使用者などの財産に、損害が生じる危険性があることを示しています。

---



---

**注意** – 表面が高温であることを示しています。火傷をするおそれがあるため、触れないでください。

---



---

**注意** – 高電圧であることを示しています。感電や怪我を防ぐため、説明に従ってください。

---

---

**ヒント** – 効果的な使い方など、使用者にとって価値のある情報であることを示しています。

---

## 本文中の警告表示の仕方

警告レベルの記号の後ろに警告文が続きます。通常の記述行からは、前後 1 行ずつ空けています。



---

**注意** – 本製品および弊社提供のオプション製品について、以下に示す作業は当社技術員が行います。お客様は絶対に作業しないようお願いします。故障の原因となる恐れがあります。

---

また、重要な警告表示は、[xiv ページ](#)の「**重要な警告事項の一覧**」としてまとめて記載しています。

# 安全上の注意事項

## 重要な警告事項の一覧

本マニュアル中に記載している重要な警告事項は以下のとおりです。



**注意** – 正しく使用しない場合、軽傷、または中程度の傷害を負うことがあり得ることと、当該製品自身またはその他の使用者などの財産に、損害が生じる危険性があることを示しています。

| 作業区分 | 警告事項  |
|------|---|
|      | 人体および装置に対する損傷<br>取り付け作業を開始する前に、ラックに転倒防止バーを配置してください。   |
|      | ラックの転倒防止のため、装置は常にラックの下段から上段の順に取り付けてください。  |
|      | SPARC Enterprise T5440 サーバの重量は約 40 kg (88 ポンド) です。このマニュアルの手順に従って、サーバを持ち上げてラック格納装置に取り付けるには、2 人の作業員が必要です。 |
|      | 2 人で行う手順については、各手順の前後および作業中に常に意思の疎通を図り、混乱が起こらないようにしてください。  |
|      | 伸ばしたスライドレール上のサーバの重量によって、装置ラックが転倒する可能性があります。   |



**注意** – 高電圧であることを示しています。感電や怪我を防ぐため、説明に従ってください。

| 作業区分  | 警告事項  |
|-------|---|
| 装置設置時 | 感電・発火<br>サーバおよび関連機器が適切にアースされていないと、感電する可能性があります。 |

---

# 製品取扱い上の注意事項

## メンテナンスについて



---

**警告** - 本製品、および当社提供のオプション製品について、以下に示す作業は当社技術員が行います。お客様は絶対に作業しないようお願いいたします。感電・負傷・発火のおそれがあります。

---

- 各装置の新規設置と移設、および初期設定
- 前面、後面および側面カバーの取外し
- 内蔵オプション装置の取付け／取外し
- 外部インターフェースケーブルの抜差し
- メンテナンス（修理と定期的な診断と保守）



---

**注意** - 本製品および当社提供のオプション製品について、以下に示す作業は当社技術員が行います。お客様は絶対に作業しないようお願いいたします。故障の原因となるおそれがあります。

---

- お客様のお手元に届いたオプションアダプタなどの開梱
- 外部インターフェースケーブルの抜差し

## 本製品の改造／再生について



---

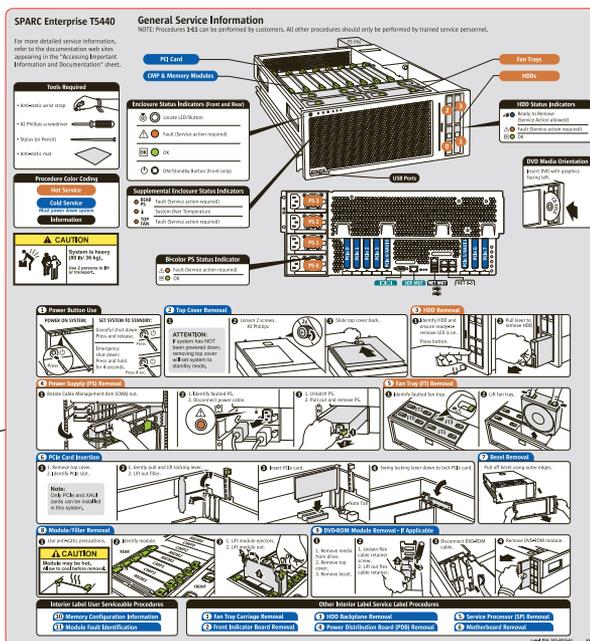
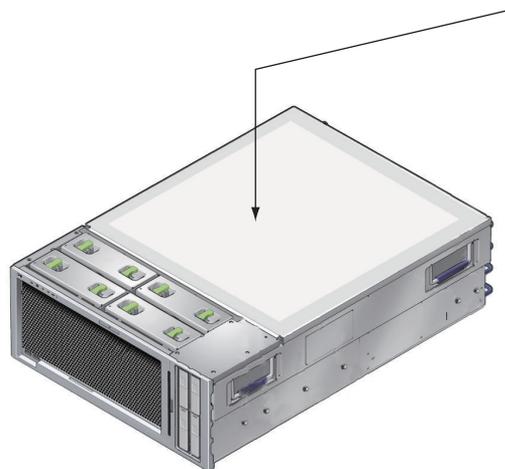
**注意** - 本製品に改造を加えたり、本製品の中古品を再生して使用すると、使用者や周囲の方の身体や財産に予期しない損害が生じるおそれがあります。

---

# 警告ラベル

当製品には以下のようにラベルが貼付してあります。

- ラベルは絶対にはがさないでください。
- 以下のラベルは当製品の使用者を対象としています。



SPARC Enterprise T5440サーバの例

## 使用済製品の引取りとリサイクルについてのお願い

- この製品の所有権が事業主の場合には、使用後に廃棄される製品は産業廃棄物扱いとなり、廃棄する際にはマニフェスト伝票（廃棄物管理表）の発行が必要となります。
- 製品所有者が当社に廃棄を依頼される場合には、“富士通りサイクル受付センター”をご利用ください。
- 詳しくは、環境活動のホームページ（<http://eco.fujitsu.com/jp/>）の“富士通りサイクルシステム”（<http://eco.fujitsu.com/jp/5g/products/recycleindex.html>）をご覧ください。か、または担当営業にお問合せください。
- なお、“富士通パソコンリサイクル受付センター”は、個人のお客様専用受付窓口のため、ご利用いただけませんのでご注意ください。
- 当社では、富士通りサイクルシステムを構築し、リサイクルセンターでの使用済製品の解体、分別処理により、部品の再使用や材料へのリサイクルを行っています。

## 廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

- 本機器を使用していた状態のまま廃棄・譲渡すると、ハードディスク内のデータを第三者に読み取られ、予期しない用途に利用される恐れがあります。機密情報や重要なデータの流出を防ぐためには、本機器を廃棄・譲渡する際に、ハードディスク上のすべてのデータを消去することが必要となります。
- ところが、ハードディスク上のデータを消去するというのは、それほど容易なことではありません。ハードディスクを初期化（フォーマット）したり、OS上からファイルを削除する操作をただけでは、一見データが消去されたように見えますが、ただ単にOS上でそれらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけであり、悪意を持った第三者によってデータが復元される恐れがあります。
- したがって、お客様の機密情報や重要なデータをハードディスク上に保存していた場合には、上に挙げるような操作をするだけでなく、データ消去のサービスを利用するなどして、これらのデータを完全に消去し、復元されないようにすることをお勧めします。
- お客様が、廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。

- なお、ソフトウェア使用許諾（ライセンス）契約により、ソフトウェア（OS やアプリケーション・ソフトウェア）の第三者への譲渡が制限されている場合、ハードディスク上のソフトウェアを削除することなくサーバなどを譲渡すると、契約違反となる可能性があるため、そうした観点からも十分な確認を行う必要があります。
- 弊社では、お客様の機密情報や重要なデータの漏洩を防止するため、お客様が本機器を廃棄・譲渡する際にハードディスク上のデータやソフトウェアを消去するサービスを提供しておりますので、是非ご利用ください。

## データ消去サービス

弊社の専門スタッフがお客様のもとにお伺いし、短時間で、磁気ディスクおよび磁気テープ媒体上のデータなどを消去するサービスです。

- 詳しくは、ストレージ統合サービス  
(<http://storage-system.fujitsu.com/jp/service/integrate/>) をご覧ください。

---

## ご意見をお寄せください

本書に関するご意見、ご要望または内容に不明確な部分がありましたら、マニュアル番号、マニュアル名称、ページおよび具体的な内容を下記URLの『お問い合わせ』から送付してください。

SPARC Enterprise マニュアルのサイト

(<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>)

# 設置の準備

---

次の各項では、13 ページの「SPARC Enterprise T5440 サーバの取り付け」で説明する設置手順に関する基本的な情報について説明します。

| 項目                              | リンク   |
|---------------------------------|---|
| サーバの識別                          | <a href="#">1 ページの「SPARC Enterprise T5440 サーバの概要」</a> |
| システムの取り付けに必要な工具類および機器の一覧        | <a href="#">2 ページの「必要な工具および機器」</a>                    |
| 取り付け作業の概要                       | <a href="#">3 ページの「設置の概要」</a>                         |
| システムの取り付けに必要なケーブル               | <a href="#">5 ページの「配線に関する注意事項」</a>                    |
| スライドレール構成部品のコンポーネントの説明          | <a href="#">7 ページの「スライドレール構成部品の概要」</a>                |
| ケーブル管理アームの説明                    | <a href="#">8 ページの「ケーブル管理アームの概要」</a>                  |
| 互換性のあるラックまたは装置キャビネットの物理要件       | <a href="#">9 ページの「ラックの互換性に関する要件」</a>                 |
| 取り付け作業中の事故を防ぐための注意事項            | <a href="#">10 ページの「安全のための注意事項」</a>                   |
| 取り付け作業中の機器の損傷を防ぐための静電放電に関する注意事項 | <a href="#">11 ページの「ESD に関する注意事項」</a>                 |

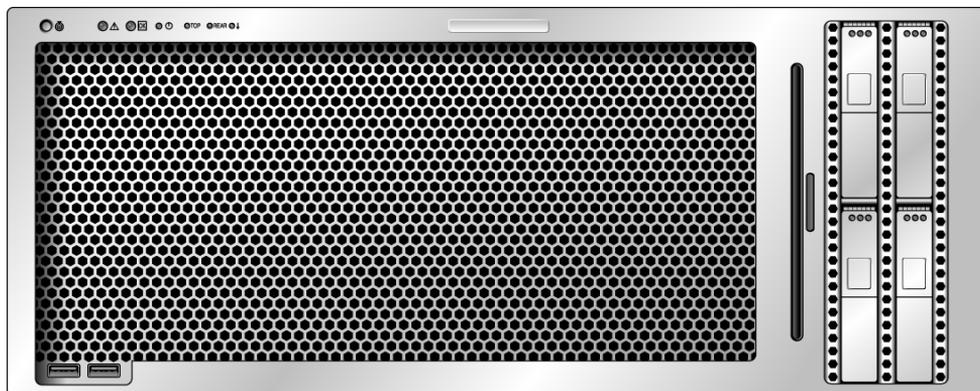
---

---

## SPARC Enterprise T5440 サーバの概要

SPARC Enterprise T5440 は、4 ラックユニット (4U) サーバです ([2 ページの「図: SPARC Enterprise T5440 サーバ」](#))。

図: SPARC Enterprise T5440 サーバ



### 関連情報

- データセンターの物理要件および環境要件の詳細は、『SPARC Enterprise T5440 サーバ設置計画マニュアル』を参照してください。

---

## 必要な工具および機器

システムを設置するには、次の工具が必要です。

- 長いプラスのねじ回し (Phillips の 2 番)
- カッターまたは頑丈なはさみ
- サインペンまたはテープ
- ESD マットおよびアースストラップ

さらに、次のいずれかのようなシステムコンソールデバイスを用意する必要があります。

- ASCII 端末
- ワークステーション
- 端末サーバ
- 端末サーバに接続されたパッチパネル

### 関連情報

- [10 ページの「安全のための注意事項」](#)
- [11 ページの「ESD に関する注意事項」](#)

---

## 設置の概要

この設置マニュアルでは、次の順序で実行される手順について説明します。

1. 使用するサーバと一緒に出荷されるコンポーネントがすべて届いていることを確認します。
2. 使用しているシステムの設定情報を収集します。次のパラメータなどの詳細情報については、システム管理者に確認してください。
  - ネットマスク
  - サービスプロセッサの IP アドレス
  - ゲートウェイの IP アドレス
3. システムと同梱されているオプションのコンポーネントを取り付けます。増設メモリーなど、その他のオプションのコンポーネントを購入した場合は、サーバをラックに取り付ける前にこれらのコンポーネントを取り付けてください。[5 ページの「オプションのコンポーネントの取り付け」](#)を参照してください。
4. ラックまたはキャビネットにサーバを取り付けます。[14 ページの「ラックのスライド構成部品の取り付け」](#)を参照してください。

---

**注** – このマニュアルでは、「ラック」という用語はオープンラックまたはクローズキャビネットのいずれかを意味します。

---

5. サーバをシリアル端末または端末エミュレータ (PC またはワークステーション) に接続して、システムメッセージを表示します。[32 ページの「はじめてのシステムの電源投入」](#)を参照してください。



---

**注意** – 電源ケーブルを接続する前に、シリアル端末または端末エミュレータを接続してください。システムに AC 電源が接続されるとすぐに、サービスプロセッサの電源が入り、診断が実行されます。診断テストで問題が発見されると、シリアル端末に出力されます。詳細は、『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル SPARC Enterprise T5440 サーバ』を参照してください。

---

6. データケーブルをサーバに接続しますが、AC 電源ケーブルはまだ接続しないでください。[26 ページの「サーバケーブルの接続」](#)を参照してください。
7. AC 電源ケーブルをサーバに接続し、エラーメッセージが表示されるかどうかを確認します。[32 ページの「はじめてのシステムの電源投入」](#)を参照してください。  
サービスプロセッサは、3.3 V のスタンバイ電圧で動作します。システムに AC 電源が接続されるとすぐに、サービスプロセッサの電源が入り、診断が実行され、ILOM ファームウェアが初期化されます。



---

**注意** – サーバおよび関連機器が適切にアースされていないと、感電する可能性があります。

---

8. サービスプロセッサの起動後に、シリアル管理ポートを介して ILOM コマンド行インタフェース (CLI) にアクセスします。40 ページの「シリアル管理ポートを使用して、サービスプロセッサにログインする」を参照してください。
9. サービスプロセッサのネットワークアドレスを構成します。41 ページの「サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを構成する」を参照してください。

---

**注** – サービスプロセッサのシリアル管理ポートを介してサービスプロセッサのネットワーク設定を構成するまで、サービスプロセッサのネットワーク管理ポートは動作しません。

---

10. サービスプロセッサのネットワークパラメータに対する変更を確定します。33 ページの「はじめてシステムの電源を入れる」の手順 2 を参照してください。
11. ILOM ソフトウェアを使用してキーボードからサーバの電源を入れます。45 ページの「システムの電源を入れる」を参照してください。
12. Solaris OS を構成します。49 ページの「Solaris オペレーティングシステムの起動」を参照してください。

Solaris OS は、サーバにプリインストールされています。電源を入れると、自動的に Solaris OS の設定手順に進みます。

13. サーバに必要なパッチをインストールします。  
必要なパッチの一覧は、『SPARC Enterprise T5440 サーバプロダクトノート』を参照してください。
14. Solaris メディアキットから追加ソフトウェアを読み込みます (任意)。  
Solaris メディアキット (別売) には、サーバの操作、設定、および管理に役立つソフトウェアが収録された CD が複数含まれています。収録されているすべてのソフトウェアのリストおよびインストール手順の詳細は、メディアキットに付属のドキュメントを参照してください。

## 関連情報

- 2 ページの「必要な工具および機器」
- 10 ページの「安全のための注意事項」
- 11 ページの「ESD に関する注意事項」
- 13 ページの「SPARC Enterprise T5440 サーバの取り付け」
- 31 ページの「システムの電源投入」

## オプションのコンポーネントの取り付け

サーバの標準コンポーネントは出荷時に取り付けられています。ただし、増設メモリーや PCI カードなどのオプションを注文した場合、これらは個別に出荷されません。可能な場合は、サーバをラックに取り付ける前に、これらのコンポーネントを取り付けてください。

---

**注** – オプションのコンポーネントのリストは、予告なしに更新される可能性があります。サーバでサポートされているコンポーネントの最新のリストについては、この製品の Web サイトを参照してください。

---

### 関連情報

- 出荷時に取り付けられていないオプションを注文した場合、取り付け手順については『SPARC Enterprise T5440 サーバサービスマニュアル』を参照してください。

---

## 配線に関する注意事項

- サーバのケーブル接続の最小構成:
  - 1 つ以上のシステムボード上の Ethernet ネットワーク接続 (NET ポート)
  - サービスプロセッサのシリアル管理ポート (SER MGT ポート)
  - サービスプロセッサのネットワーク管理ポート (NET MGT ポート)
  - システム電源装置の電源ケーブル
- サービスプロセッサの管理ポート: ILOM サービスプロセッサで使用するサービスプロセッサの管理ポートは 2 つあります。
  - サービスプロセッサのシリアル管理ポート (ラベル SER MGT) では RJ-45 ケーブルを使用します。このポートは常に使用可能です。このポートは、ILOM サービスプロセッサへのデフォルトの接続です。
  - サービスプロセッサのネットワーク管理ポート (ラベル NET MGT) は、ILOM サービスプロセッサへのオプションの接続です。サービスプロセッサのシリアル管理ポートを介してサービスプロセッサのネットワーク設定を構成するまで、このポートは使用できません。37 ページの「サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを使用可能にする方法」を参照してください。サービスプロセッサのネットワーク管理ポートでは、10/100 BASE-T 接続用に RJ-45 ケーブルを使用します。このポートでは、ギガビットネットワークへの接続はサポートされていません。

- Ethernet ポートには、NET0、NET1、NET2、および NET3 のラベルが付いています。Ethernet インタフェースは、10 Mbps、100 Mbps、および 1000 Mbps で動作します。6 ページの「表: Ethernet 接続の転送速度」に、Ethernet ポートの転送速度を示します。

表: Ethernet 接続の転送速度

| 接続タイプ          | IEEE 用語    | 転送速度      |
|----------------|------------|-----------|
| Ethernet       | 10BASE-T   | 10 Mbps   |
| Fast Ethernet  | 100BASE-TX | 100 Mbps  |
| ギガビット Ethernet | 1000BASE-T | 1000 Mbps |

- TTYA シリアルポート: シリアルデバイス用のヌルモデムケーブルが付いた DB-9 コネクタを使用します。このポートは、Solaris OS および OpenBoot™ PROM メッセージでは ttya と表示されます。このポートは、サービスプロセッサのシリアル管理ポートには接続されません。
- USB ポート: USB ポートでは、ホットプラグがサポートされています。システムの動作中に、システムの運用に影響を与えることなく、USB ケーブルや周辺装置を接続したり切り離したりできます。
  - OS の動作中にのみ、USB ホットプラグ処理を実行できます。システムの ok プロンプトが表示されているときやシステムの起動が完了する前は、USB ホットプラグ処理はサポートされていません。
  - 4 つの USB コントローラには、それぞれデバイスを 126 台まで接続でき、1 つのシステムにつき合計 504 台の USB デバイスを接続できます。
- AC 電源ケーブル: データケーブルの接続が完了し、サーバをシリアル端末または端末エミュレータ (PC またはワークステーション) に接続するまでは、電源ケーブルを電源装置に接続しないでください。AC 電源ケーブルを電源に接続するとすぐに、サーバがスタンバイモードになり、ILOM サービスプロセッサが初期化されます。サーバが端末、PC、またはワークステーションに接続されていないと、60 秒後にシステムメッセージが失われる場合があります。

## 関連情報

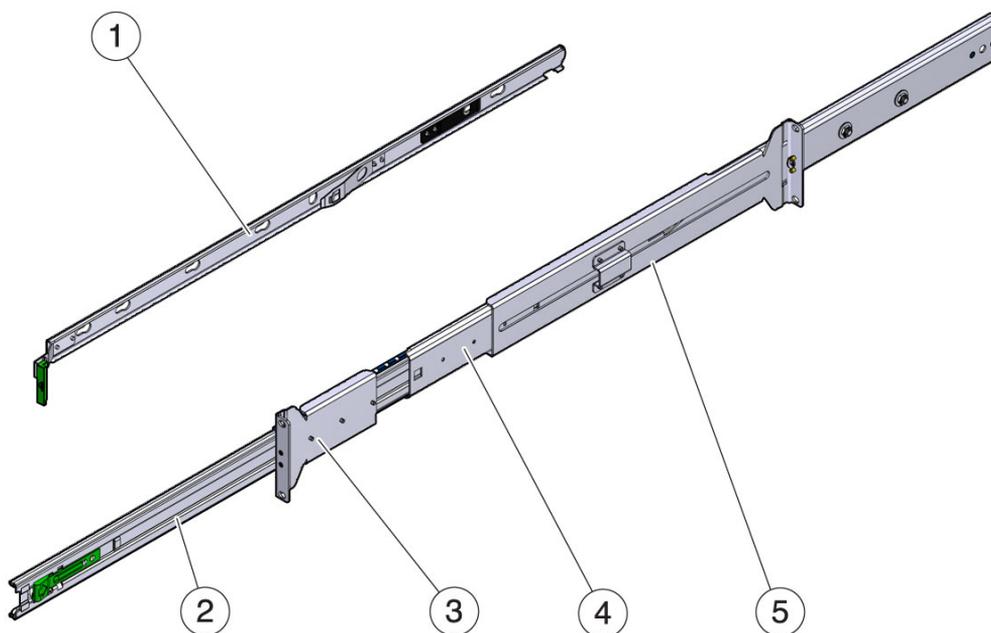
- 『SPARC Enterprise T5440 サーバ設置計画マニュアル』
- 10 ページの「安全のための注意事項」
- 8 ページの「ケーブル管理アームの概要」
- 29 ページの「背面パネルのケーブル接続に関する参照情報」

## スライドレール構成部品の概要

ラックマウントキットには「スライドレール構成部品」が2つ含まれていて、これらをラックの両側に1つずつ取り付けます。各スライドレール構成部品には、「LEFT」または「RIGHT」のマークが付いています。

各スライドレール構成部品は、3つのセクションのスライドレールおよび取り外し可能な内部レールで構成されます(7ページの「図: ラックマウントキットの部品」)。

図: ラックマウントキットの部品



図の説明

- 1 内部レール
- 2 内部スライド構成部品
- 3 前面ラック搭載用固定部品
- 4 外部スライド構成部品
- 5 背面ラック搭載用固定部品

- 「スライドレール構成部品」は、「内部スライド構成部品」、「前面ラック搭載用固定部品」、および「背面ラック搭載用固定部品」で構成されています。内部スライド構成部品を伸ばすと、サーバをラックの外に移動することができます。
- 取り外し可能な「内部レール」は、サーバシャーシの右側または左側に取り付けます。各内部レールには、「RIGHT」または「LEFT」のマークが付いています。
- 「外部スライド構成部品」は、ラックまたはキャビネットに取り付けます。外部スライド構成部品には、前面および背面ラック搭載用固定部品が含まれています。前面および背面ラック搭載用固定部品には取り付けねじ用の穴があり、63.5 cm (25 インチ) ~ 87 cm (34.25 インチ) のラックの奥行に合わせて調整できます。

#### 関連情報

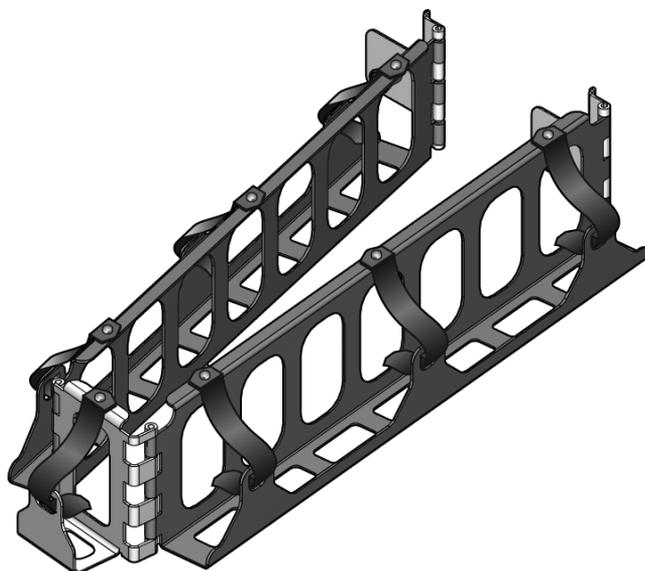
- [2 ページの「必要な工具および機器」](#)
- [8 ページの「ケーブル管理アームの概要」](#)
- [9 ページの「ラックの互換性に関する要件」](#)
- [14 ページの「ラックのスライド構成部品の取り付け」](#)
- [19 ページの「キャビネットへのサーバの取り付け」](#)

---

## ケーブル管理アームの概要

ケーブル管理アーム (CMA) は、スライドレールおよびサーバの背面パネルに取り付けます。CMA 固定部品を通してケーブルを配線し、面ファスナーを使用して固定部品を固定します。

図: ケーブル管理アーム



#### 関連情報

- 2 ページの「必要な工具および機器」
- 5 ページの「配線に関する注意事項」
- 7 ページの「スライドレール構成部品の概要」
- 9 ページの「ラックの互換性に関する要件」
- 22 ページの「ケーブル管理アーム (CMA) の取り付け」
- 30 ページの「CMA を使用したケーブルの管理」

---

## ラックの互換性に関する要件

ラックマウントキットは、次の規格を満たす装置ラックと互換性があります。

- 4 ポスト構造である (前面および背面の両方に搭載)。
- ラックの水平方向の開口部とユニットの垂直方向のピッチが、ANSI/EIA 310-D-1992 または IEC 60927 規格に準拠している。
- 前面と背面の取り付け面の間隔が 650 ~ 915 mm (24 ~ 36 インチ) である。

- 前面の取り付け面から手前側の、前面のキャビネットドアまでの距離が 25.4 mm (1 インチ) 以上である。
- 前面の取り付け面の裏側からキャビネットの背面ドアまでの距離が、ケーブル管理アームを取り付ける場合 (推奨) は 800 mm (31.5 インチ) 以上、ケーブル管理アームを取り付けない場合は 700 mm (27.5 インチ) 以上である。
- 前面の取り付け面と背面の取り付け面との間の、構造支柱とケーブルの溝との間の距離が 456 mm (18 インチ) 以上である。

---

注 - 2 ポストラックは互換性がありません。

---

### 関連情報

- 『SPARC Enterprise T5440 サーバ設置計画マニュアル』
- [2 ページの「必要な工具および機器」](#)
- [5 ページの「配線に関する注意事項」](#)
- [7 ページの「スライドレール構成部品の概要」](#)
- [8 ページの「ケーブル管理アームの概要」](#)
- [13 ページの「SPARC Enterprise T5440 サーバの取り付け」](#)

---

## 安全のための注意事項

---



**注意** - 取り付け作業を開始する前に、装置ラックに転倒防止バーを配置してください。

---



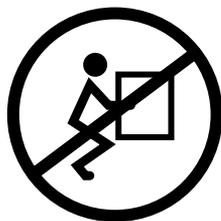
**注意** - 上部の重みでラックが転倒しないように、装置は常にラックの下から順に取り付けてください。

---



**注意** - SPARC Enterprise T5440 サーバの重量は約 40 kg (88 ポンド) です。このドキュメントの手順に従って、サーバを持ち上げてラック格納装置に取り付けるには、2 人の作業員が必要です。

---



---

**注意** – 2人で行う手順については、各手順の前後および作業中に常に意思の疎通を図り、混乱が起こらないようにしてください。

---

#### 関連情報

- 『SPARC Enterprise T5440 サーバ安全に使用していただくために』
- [11 ページの「ESD に関する注意事項」](#)

---

## ESD に関する注意事項

電子機器は、静電気により損傷する可能性があります。サーバの設置または保守を行う場合は、アースされた静電気防止用リストストラップ、フットストラップ、または同等の安全器具を使用して、静電気による損傷 (ESD) を防いでください。



---

**注意** – 電子コンポーネントが静電気によって損傷すると、システムが永続的に使用できなくなるか、保守技術者による修復が必要になる可能性があります。電子コンポーネントを静電気による損傷から保護するには、静電気防止用マット、静電気防止袋、使い捨て静電気防止用マットなどの静電気防止面にコンポーネントを置いてください。システムコンポーネントを取り扱うときは、シャーシの金属面に接続された静電防止用アースストラップを着用してください。

---

#### 関連情報

- [10 ページの「安全のための注意事項」](#)



# SPARC Enterprise T5440 サーバの 取り付け

---

次の各項では、装置ラックにサーバを取り付ける手順について説明します。

---

**注** – ラックマウントキットに説明書が付属している場合は、この章の手順ではなくラックマウントキットの説明書の手順を使用してください。サーバの取り付けを実行したあとで、[31 ページの「システムの電源投入」](#)に進んで、はじめての電源投入を行なってください。

---

| 項目                                   | リンク  |
|--------------------------------------|--|
| スライドラール構成部品の取り付け                     | <a href="#">14 ページの「ラックのスライド構成部品の取り付け」</a>     |
| キャビネットへのサーバの取り付けと、スライドラール構成部品の最終的な調整 | <a href="#">19 ページの「キャビネットへのサーバの取り付け」</a>      |
| ケーブル管理アームの取り付け                       | <a href="#">22 ページの「ケーブル管理アーム (CMA) の取り付け」</a> |
| 電源ケーブルおよびデータケーブルのサーバへの接続             | <a href="#">26 ページの「サーバケーブルの接続」</a>            |
| ケーブル管理アームの使用法                        | <a href="#">30 ページの「CMA を使用したケーブルの管理」</a>      |

---

---

# ラックのスライド構成部品の取り付け

---

注 – サーバの取り付けを開始する前に、ラックマウントキットの部品がすべてそろっていることを確認してください。

---

| 作業                          | リンク   |
|-----------------------------|---|
| サーバに内部レールを取り付ける。            | <a href="#">14 ページの「サーバに内部レールを取り付ける」</a>      |
| キャビネットで使用する取り付け穴を決定する。      | <a href="#">16 ページの「ラックに搭載する位置を決める」</a>       |
| スライドレールをキャビネットの適切な位置に取り付ける。 | <a href="#">17 ページの「キャビネットにスライドレールを取り付ける」</a> |

---

## 関連情報

- 『SPARC Enterprise T5440 サーバ設置計画マニュアル』
- [2 ページの「必要な工具および機器」](#)
- [7 ページの「スライドレール構成部品の概要」](#)
- [9 ページの「ラックの互換性に関する要件」](#)
- [10 ページの「安全のための注意事項」](#)
- [19 ページの「キャビネットへのサーバの取り付け」](#)

## ▼ サーバに内部レールを取り付ける

この手順では、サーバに内部レールを取り付ける方法について説明します。

---

注 – この手順での「左」または「右」という表現は、装置ラックを前面から見ていることを前提としています。

---

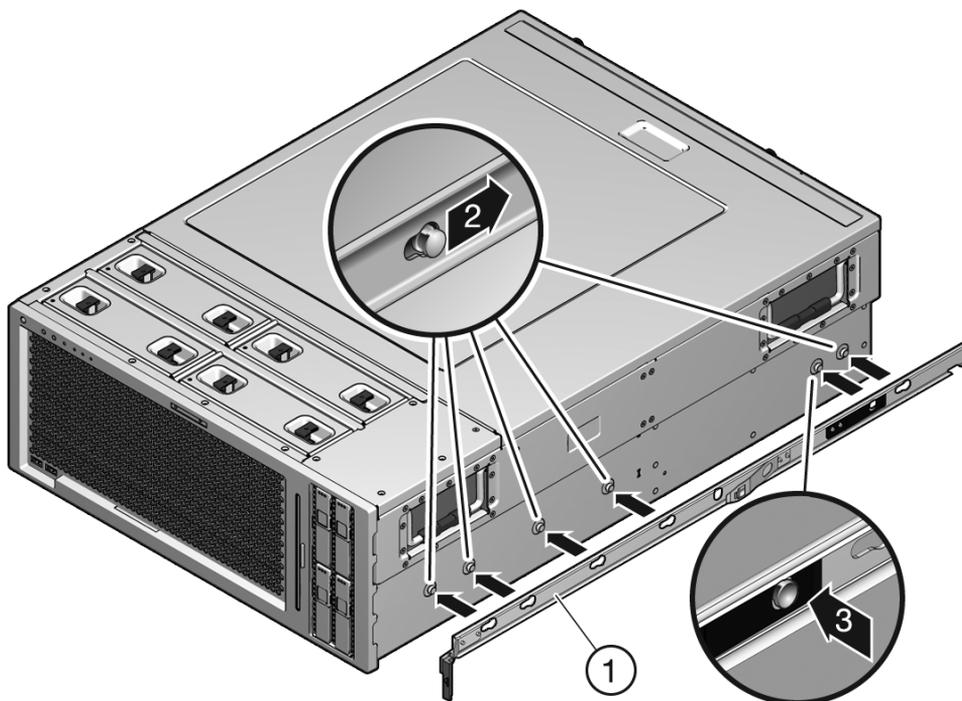
1. スライドレールロックが前面にくるようにして、サーバに内部レールを配置します。[15 ページの「図: シャーシへの内部レールの取り付け」](#)を参照してください。

---

注 - 各内部レールには「left」および「right」のラベルが付いています。内部レールをサーバの適切な側に取り付けていることを確認してください。

---

図: シャーシへの内部レールの取り付け



#### 図の説明

- 
- 1 内部レール
  - 2 位置決め用ピン
  - 3 固定用の爪
- 

2. 内部レール上の 6 つのはめ込み用の穴と、サーバ側の 6 つの位置決め用ピンの位置を合わせます。
3. サーバの背面に向かって固定部品を押しながら、固定部品の背面側の部分を押し込んで、内部レールを所定の位置にはめ込みます。
4. 6 つのすべての位置決め用ピンがはめ込み用の穴に固定されていることを確認します。

- 手順 1 ~ 4 を繰り返して、サーバの反対側に残りの内部レールを取り付けます。

## ▼ ラックに搭載する位置を決める

サーバの高さは 4 ラックユニットです。ラックマウントキットに付属しているラックマウントテンプレートを 사용하여、キャビネットで使用する取り付け穴を決定します。



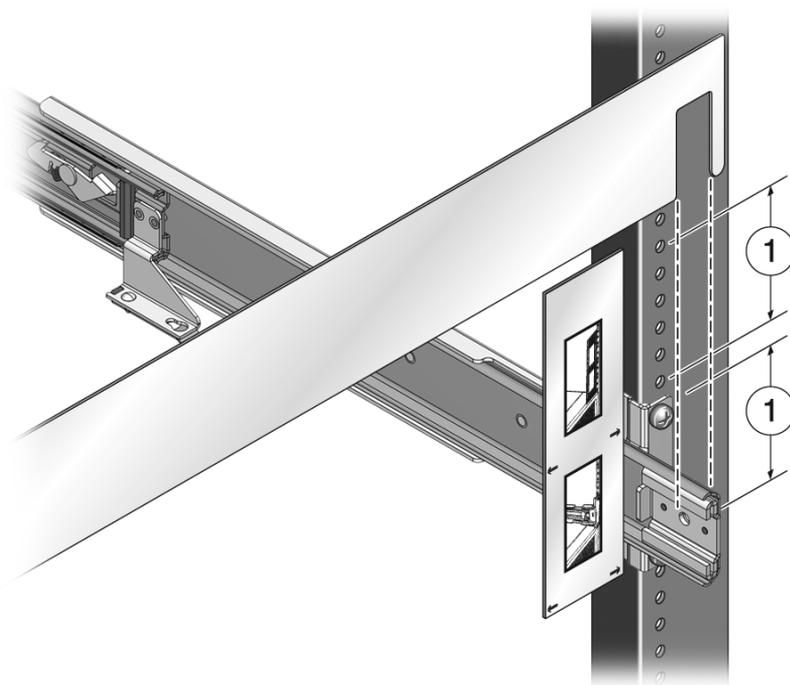
---

**注意** – 上部の重みでラックが転倒しないように、装置は常にラックの下から順に取り付けてください。

---

- ラックに取り付けられた下部のシステムの上にラックマウントテンプレートを配置します。
- ラックマウントテンプレートの矢印にもっとも近いキャビネットの取り付け穴にマークを付けます。
  - ラックユニットにつき 3 つの穴があるラックの場合、このサーバの高さではラックの支柱ごとに 12 個の穴を使用します。17 ページの「[図: ラックマウントテンプレートの使用](#)」を参照してください。

図: ラックマウントテンプレートの使用



#### 図の説明

---

1 6つの取り付け穴

---

注 – 使用するキャビネットにねじ山のない正方形の取り付け穴が付いている場合は、ラックマウントキットに同梱のねじ込み式の取り付け用クリップを取り付けてください。

---

## ▼ キャビネットにスライドレールを取り付ける

---

注 – この手順での「左」または「右」という表現は、装置ラックを前面から見ていることを前提としています。

---

次の作業を実行します。

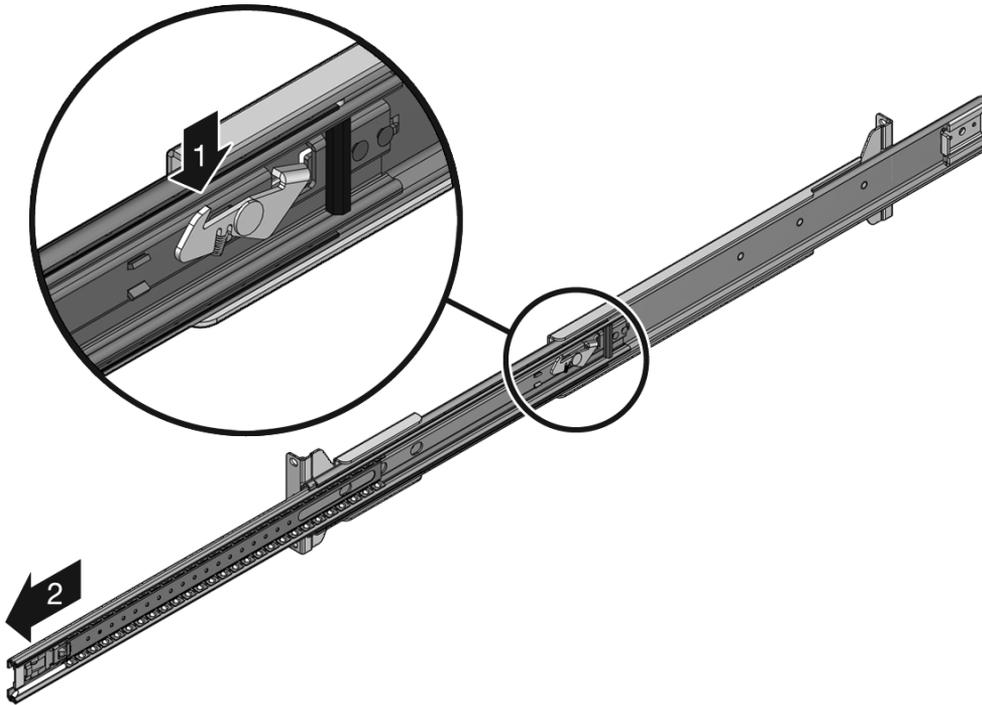
- [14 ページの「サーバに内部レールを取り付ける」](#)

■ 16 ページの「ラックに搭載する位置を決める」

1. ラックにスライドレールを取り付ける前に、内部スライド構成部品を完全に分解します。

内部レールをスライドレール構成部品の最後までスライドさせます。ばね式のスライドレールロックを外します。18 ページの「[図: スライドレールロックの外し方](#)」を参照してください。

図: スライドレールロックの外し方



2. キャビネットの前面ポストと背面ポストの間隔に合わせて、スライドレール構成部品が調節されていることを確認します。

---

注 - 各スライドレールには「left」および「right」のラベルが付いています。スライドレールをキャビネットの適切な側に取り付けていることを確認してください。

---

3. 位置合わせ用のピンを使用して、前面および背面のラックポストに対して外部レールの位置を合わせます。

4. 前面の固定部品の穴にねじを取り付けます。

ラックレールの間隔ブラケットを使用してスライド構成部品の位置をそろえながら、取り付けねじを締め付けます。

---

注 – ラックマウントキットには、メートル寸法とインチ寸法の両方の留め金が含まれています。使用するキャビネットに適した留め金を使用してください。

---

5. 各レールが完全に外部レールの中に収まっていることを確認します。

6. ラックの背面に移動します。

7. キャビネットの背面の左下と右下のねじを締めます。

ラックレールの間隔ブラケットを使用してスライド構成部品の位置をそろえながら、取り付けねじを締め付けます。

### 関連情報

スライドレール構成部品の詳細は、[7 ページ](#)の「スライドレール構成部品の概要」を参照してください。

---

## キャビネットへのサーバの取り付け

| 作業                  | リンク  |
|---------------------|--|
| キャビネットにサーバをスライドさせる。 | <a href="#">20 ページ</a> の「キャビネットにサーバを取り付ける」   |
| サーバの取り付けが適切か確認する。   | <a href="#">21 ページ</a> の「スライドレールの動作が適切か確認する」 |

### 関連情報

- 『SPARC Enterprise T5440 サーバ設置計画マニュアル』
- [2 ページ](#)の「必要な工具および機器」
- [7 ページ](#)の「スライドレール構成部品の概要」
- [9 ページ](#)の「ラックの互換性に関する要件」
- [10 ページ](#)の「安全のための注意事項」

## ▼ キャビネットにサーバを取り付ける

次の手順では、サーバをキャビネットに挿入する方法について説明します。



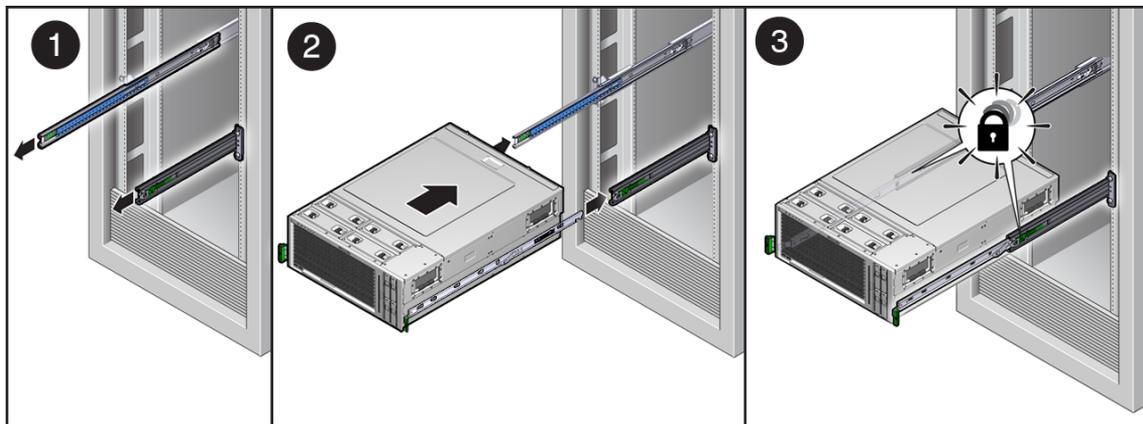
**注意** – 伸ばしたスライドレール上のサーバの重量によって、装置キャビネットが転倒する可能性があります。作業を開始する前に、キャビネットに転倒防止機能を配置してください。



**注意** – サーバの重量は約 40 kg (88 ポンド) です。この章の手順に従って、サーバを持ち上げてラック格納装置に取り付けるには、2 人の作業員が必要です。

1. 内部スライド構成部品をスライドさせて、拡張位置でロックされるまで、外部レールからすべて引き出します。  
20 ページの「[図: ラックへのシステムの挿入](#)」を参照してください。  
ボールベアリングの止め具が完全に前方でロックされていることを確認します。

図: ラックへのシステムの挿入



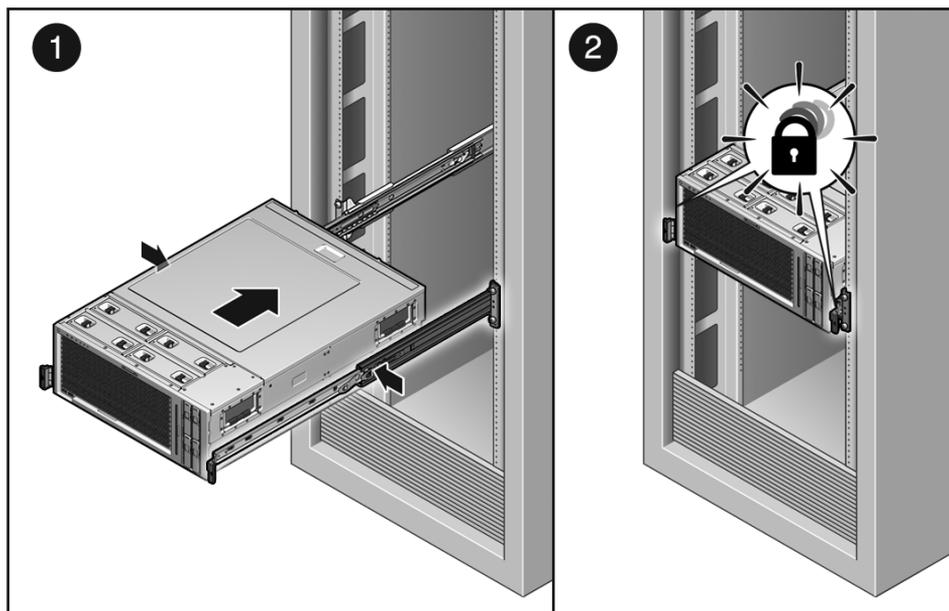
2. サーバを持ち上げて、内部レールを内部スライド構成部品に挿入します。  
内部レールを内部スライド構成部品に挿入するとき、内部レールが水平であることを確認してください。
3. 両方の内部スライド構成部品のボールベアリングの止め具に内部レールがかみ合っていることを確認します。

注 – ラックに取り付けられた内部スライド構成部品に対して内部レールが並行になるように配置する間、必要に応じて、機械式リフトを使用してサーバを支えてください。

サーバが保守用の拡張位置でロックされます。

4. 内部レールのリリースボタンを押して、サーバをスライドさせてキャビネットの中に完全に挿入します。21 ページの「図: キャビネットへのサーバのスライド」を参照してください。

図: キャビネットへのサーバのスライド



## ▼ スライドレールの動作が適切か確認する

サーバは、キャビネット内に取り付けられているほかの機器に触れることなく、滑らかにスライドしてキャビネットから出し入れできるはずです。

1. 保守用の位置でロックされるまで、サーバをゆっくりとラックから引き出します。
2. リリースボタンを押して、動作時の位置でロックされるまで、サーバをゆっくりとラックに押し込みます。

## 関連情報

スライドレール構成部品の詳細は、7 ページの「スライドレール構成部品の概要」を参照してください。

サーバの内部部品を取り付けまたは交換するには、まずサーバをラックから取り外す必要があります。取り外し手順については、『SPARC Enterprise T5440 サーバサービスマニュアル』を参照してください。

---

# ケーブル管理アーム (CMA) の取り付け

CMA キットには、次のものが含まれます。

- CMA
- CMA サポート支柱



---

**注意** – 背面側のすべてのケーブルを CMA を通して配線していない状態で、ラックからシステムをスライドさせると、I/O ケーブルおよび電源ケーブルが損傷する可能性があります。

---

---

| 作業                             | リンク                                       |
|--------------------------------|---|
| CMA サポート支柱をケーブル管理アームに取り付ける。    | <a href="#">23 ページの「CMA サポート支柱を取り付ける」</a> |
| CMA をサーバの背面パネルおよびキャビネットに取り付ける。 | <a href="#">23 ページの「CMA を取り付ける」</a>       |

---

## 関連情報

- 『SPARC Enterprise T5440 サーバ設置計画マニュアル』
- [2 ページの「必要な工具および機器」](#)
- [7 ページの「スライドレール構成部品の概要」](#)
- [9 ページの「ラックの互換性に関する要件」](#)
- [10 ページの「安全のための注意事項」](#)

## ▼ CMA サポート支柱を取り付ける

---

注 – この手順での「左」または「右」という表現は、装置ラックの背面側に立ってサーバの背面を見ていることを前提としています。

---

開始する前に、次の作業を完了しておきます。

- [14 ページの「ラックのスライド構成部品の取り付け」](#)
- [19 ページの「キャビネットへのサーバの取り付け」](#)

次の手順を実行します。

1. 左側のスライドレールに CMA サポート支柱の一方の端を取り付けます。
2. 右側の内部レールに CMA サポート支柱のもう一方の端を取り付けます。
3. サーバをスライドさせてキャビネットから出し入れし、CMA サポート支柱が適切に動作することを確認します。

## ▼ CMA を取り付ける

---

注 – この手順での「左」または「右」という表現は、装置ラックの背面側に立ってサーバの背面を見ていることを前提としています。

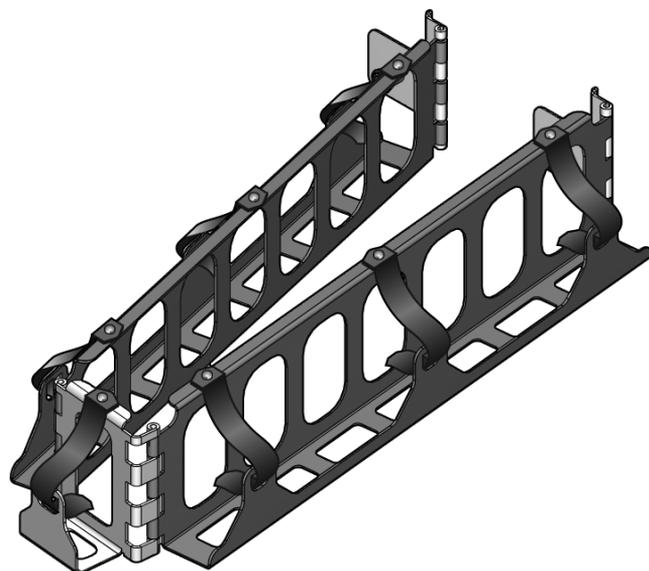
---

次の作業を実行します。

- [14 ページの「ラックのスライド構成部品の取り付け」](#)
- [19 ページの「キャビネットへのサーバの取り付け」](#)
- [23 ページの「CMA サポート支柱を取り付ける」](#)

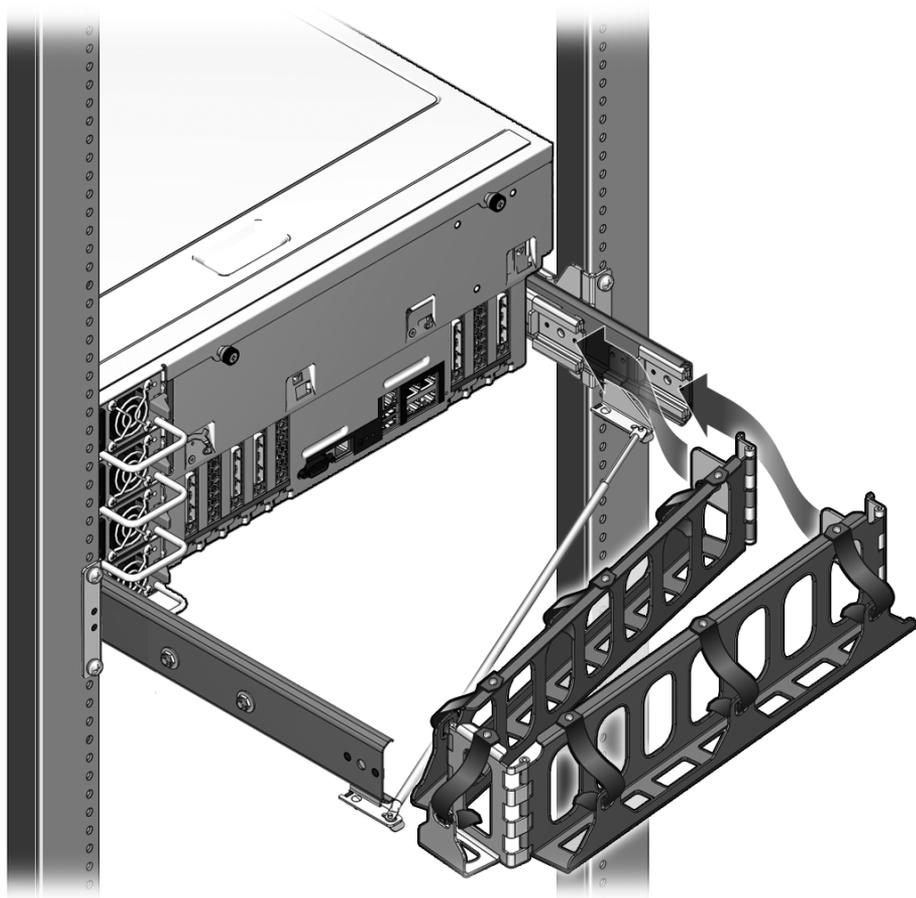
1. 必要に応じて、内部の留め金に届くまでサーバを背面側へスライドさせます。
2. [24 ページの「図: CMA の折りたたみ方」](#)に示すように、CMA を折りたたみます。

図: CMA の折りたたみ方



3. 外部レールに CMA ヒンジプレートを挿入します (25 ページの「[図: ケーブル管理アームの取り付け](#)」を参照)。  
ヒンジプレートを外部レールの端にスライドさせて差し込み、固定用のピンを所定の位置にはめ込みます。
4. 内部レールに CMA のもう一方の端を取り付けます (25 ページの「[図: ケーブル管理アームの取り付け](#)」を参照)。  
CMA を内部レールの端にスライドさせて差し込み、固定用のピンを所定の位置にはめ込みます。

図: ケーブル管理アームの取り付け



# サーバケーブルの接続

サーバを起動するには、ネットワーク管理ポートおよびシリアル管理ポートを接続して構成する必要があります。また、サーバには、オプションデバイスへの接続に使用できるシリアルポートおよび USB ポートがあります。

サーバへのケーブルの接続が完了したら、ケーブルが巻き付いたり損傷したりすることなく、サーバをスライドさせてラックから滑らかに出し入れできることを確認してください。

| 作業                            | リンク   |
|-------------------------------|---|
| シリアル管理ポートを接続する。               | <a href="#">26 ページの「サービスプロセッサのシリアル管理ポートを接続する」</a>   |
| ネットワーク管理ポートを接続する。             | <a href="#">27 ページの「サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを接続する」</a> |
| Ethernet ネットワークケーブルをサーバに接続する。 | <a href="#">28 ページの「Ethernet ネットワークケーブルを接続する」</a>   |
| AC 電源ケーブルをサーバに接続する。           | <a href="#">28 ページの「AC 電源ケーブルをサーバに接続する」</a>         |

## 関連情報

- [10 ページの「安全のための注意事項」](#)
- [11 ページの「ESD に関する注意事項」](#)
- [29 ページの「背面パネルのケーブル接続に関する参照情報」](#)
- [21 ページの「スライドラールの動作が適切か確認する」](#)
- [32 ページの「はじめてのシステムの電源投入」](#)

## ▼ サービスプロセッサのシリアル管理ポートを接続する

サービスプロセッサのシリアル管理ポートには、SER MGT とマークが付いています。コネクタの位置については、[29 ページの「図: サーバの背面パネルの接続」](#)を参照してください。

---

注 – ケーブルと DB-9/RJ-45 アダプタはホストシリアルポート用で、サービスプロセッサのシリアル管理ポート用ではありません。

---

- カテゴリ 5 ケーブルを、サービスプロセッサのシリアル管理ポートから端末デバイスに接続します。

このポートはサーバの初期管理に使用します。このポートは、[37 ページの「サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを使用可能にする方法」](#)に記載されているように、サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを設定する際に必要になります。

DB-9 または DB-25 ケーブルのいずれかを接続する場合は、アダプタを使用して、各コネクタに指定されているクロス接続を実行してください。

---

注 – サーバの管理には、サービスプロセッサのシリアル管理ポートのみを使用します。これは、サービスプロセッサと端末またはコンピュータとのデフォルトの接続です。

---



---

注意 – サービスプロセッサのシリアル管理ポートにモデムを接続しないでください。

---

## ▼ サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを接続する

- カテゴリ 5 ケーブルを、サービスプロセッサのネットワーク管理ポートからネットワークスイッチまたはハブに接続します。コネクタの位置については、[29 ページの「図: サーバの背面パネルの接続」](#)を参照してください。

サービスプロセッサのネットワーク管理ポートには、NET MGT とマークが付いています。[41 ページの「サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを構成する」](#)に記載されているように、シリアル管理ポートを介してネットワーク設定を構成するまで、このポートは動作しません。

ネットワーク上の DHCP サーバにアクセスできる場合、DHCP クライアントはデフォルトで有効になっているため、サービスプロセッサが IP アドレスを取得していることを確認できます。

---

注 – サービスプロセッサのネットワーク管理ポートは、デフォルトでは動的ホスト構成プロトコル (DHCP) を使用してネットワーク設定を取得し、Solaris Secure Shell (SSH) を使用した接続を許可するように構成されています。使用しているネットワークのこれらの設定の変更が必要になる可能性があります。手順は [31 ページの「システムの電源投入」](#) で説明します。

---

## ▼ Ethernet ネットワークケーブルを接続する

サーバには、NET0、NET1、NET2、および NET3 のマークが付いた 4 つのネットワークコネクタがあります。これらのコネクタは RJ-45 ギガビット Ethernet です。コネクタの位置については、[29 ページの「図: サーバの背面パネルの接続」](#) を参照してください。

1. カテゴリ 5 ケーブルを、ネットワークスイッチまたはハブからシャーシの背面にある Ethernet ポート 0 (NET0) に接続します。
2. 必要に応じて、ネットワークスイッチまたはハブから残りの Ethernet ポート (NET1、NET2、NET3) に、カテゴリ 5 ケーブルを接続します。

## ▼ AC 電源ケーブルをサーバに接続する



---

注意 – この章のハードウェアに関する手順を完了させてください。ただし、AC 電源ケーブルはまだ電源に接続しないでください。

---

システムの電源をはじめて入れるときには、特別な準備および手順が必要です。たとえば、AC 電源ケーブルを接続する前にディスプレイを準備していないと、システムメッセージが失われる可能性があります。



---

注意 – AC 電源ケーブルを電源に接続するとすぐに、サーバがスタンバイモードになり、サービスプロセッサが初期化されます。

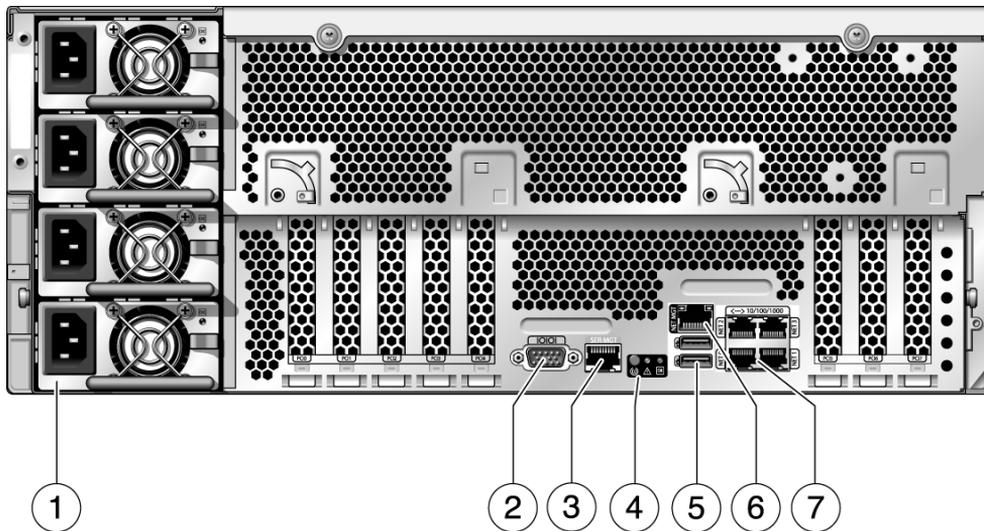
---

- サーバを AC 電源に接続する手順については、[32 ページの「はじめてのシステムの電源投入」](#) を参照してください。

## 背面パネルのケーブル接続に関する参照情報

SPARC Enterprise T5440 サーバのポートの位置については、29 ページの「[図: サーバの背面パネルの接続](#)」を参照してください。

図: サーバの背面パネルの接続



### 図の説明

|   |                     |   |                       |
|---|---------------------|---|-----------------------|
| 1 | 電源装置のコネクタ           | 5 | USB ポート               |
| 2 | シリアルポート (DB-9)      | 6 | サービスプロセッサのネットワーク管理ポート |
| 3 | サービスプロセッサのシリアル管理ポート | 7 | ギガビット Ethernet ポート    |
| 4 | 背面パネルの状態インジケータ      | 8 |                       |

注 - サーバにケーブルを接続する場合は、適切な順序に従ってください。

### 関連情報

- [5 ページの「配線に関する注意事項」](#)
- [10 ページの「安全のための注意事項」](#)
- [11 ページの「ESD に関する注意事項」](#)

# CMA を使用したケーブルの管理

| 作業              | リンク  |
|-----------------|--|
| CMA にケーブルを固定する。 | <a href="#">30 ページの「CMA にサーバケーブルを固定する」</a> |

## 関連情報

- [29 ページの「背面パネルのケーブル接続に関する参照情報」](#)
- [8 ページの「ケーブル管理アームの概要」](#)
- [22 ページの「ケーブル管理アーム \(CMA\) の取り付け」](#)

## ▼ CMA にサーバケーブルを固定する

1. サーバケーブルを接続して CMA 内に配線したら、CMA ケーブルの面ファスナーの中にケーブルを固定します。
2. スライドレールおよび CMA の動作と、ケーブルの面ファスナーを確認してください。

サーバをスライドさせてキャビネットから出し入れして、サーバがスムーズに動作し、ケーブルが巻き付いたりからまったりしないことを確認してください。

# システムの電源投入

---

この章では、サーバを起動し、サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを使用可能にする手順について説明します。

| 項目                                      | リンク  |
|---|--|
| AC 電源コードの電源への接続                         | <a href="#">32 ページの「はじめてのシステムの電源投入」</a>                  |
| 遠隔管理のためのネットワーク管理ポートの構成および使用可能への切り替え     | <a href="#">37 ページの「サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを使用可能にする方法」</a> |
| サービスプロセッサへのログイン                         | <a href="#">39 ページの「サービスプロセッサへのログイン」</a>                 |
| サービスプロセッサを使用した遠隔からの電源投入、電源切断、および再起動     | <a href="#">45 ページの「一般的な処理でのサービスプロセッサの使用」</a>            |
| Solaris OS の起動と、Solaris OS を起動しないシステム構成 | <a href="#">49 ページの「Solaris オペレーティングシステムの起動」</a>         |

## 関連情報

- [1 ページの「設置の準備」](#)
- [13 ページの「SPARC Enterprise T5440 サーバの取り付け」](#)

# はじめてのシステムの電源投入

この節では、システムの初回の電源投入の概要と手順について説明します。

| 項目                            | リンク  |
|-------------------------------|--|
| ILOM インタフェースについて知る。           | <a href="#">32 ページの「ILOM システムコンソールの概要」</a>         |
| 電源投入時の ILOM サービスプロセッサの役割を知る。  | <a href="#">33 ページの「ILOM サービスプロセッサの概要」</a>         |
| はじめて電源を入れる。                   | <a href="#">33 ページの「はじめてシステムの電源を入れる」</a>           |
| デフォルトの Solaris OS イメージについて知る。 | <a href="#">36 ページの「Solaris OS のホスト構成に関する参照情報」</a> |

## 関連情報

- 『SPARC Enterprise T5440 サーバアドミニストレーションガイド』
- 『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』
- 『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル SPARC Enterprise T5440 サーバ』

## ILOM システムコンソールの概要

システムの電源を入れると、Integrated Lights Out Manager (ILOM) システムコンソールの制御下で起動処理が開始されます。システムコンソールには、システムの起動中にファームウェアベースのテストで生成された状態メッセージおよびエラーメッセージが表示されます。

これらの状態メッセージおよびエラーメッセージを確認するには、端末または端末エミュレータをシリアル管理ポート (SER MGT) に接続してください。端末または端末エミュレータの基本的な接続手順については、[33 ページの「はじめてシステムの電源を入れる」](#)を参照してください。

## 関連情報

- 『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』
- 『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル SPARC Enterprise T5440 サーバ』

- 『SPARC Enterprise T5440 サーバアドミニストレーションガイド』
- [39 ページの「サービスプロセッサへのログイン」](#)

## ILOM サービスプロセッサの概要

システムコンソールによる低レベルのシステム診断が完了すると、ILOM サービスプロセッサが初期化され、より高いレベルの診断が実行されます。シリアル管理ポートに接続されているデバイスを使用して ILOM サービスプロセッサにアクセスすると、ILOM 診断の出力が表示されます。

サービスプロセッサは、デフォルトでは動的ホスト構成プロトコル (DHCP) を使用してネットワーク構成設定を取得し、Secure Shell (SSH) を使用した接続を許可するように、ネットワーク管理ポートを自動的に構成します。

---

**注** – 使用しているネットワーク上で DHCP を使用できない場合は、シリアル管理ポートを使用して ILOM サービスプロセッサに接続し、使用しているネットワークのネットワーク管理ポートを構成してください。[41 ページの「サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを構成する」](#)を参照してください。

---

### 関連情報

- 『SPARC Enterprise T5440 サーバサービスマニュアル』
- 『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル SPARC Enterprise T5440 サーバ』
- [29 ページの「背面パネルのケーブル接続に関する参照情報」](#)
- [37 ページの「サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを使用可能にする方法」](#)
- [39 ページの「サービスプロセッサへのログイン」](#)
- [45 ページの「一般的な処理でのサービスプロセッサの使用」](#)

## ▼ はじめてシステムの電源を入れる

次の作業を実行します。

- ラックへのサーバの取り付けが完了していることを確認します。[19 ページの「キャビネットへのサーバの取り付け」](#)を参照してください。
- ケーブル管理アームを取り付けます。[22 ページの「ケーブル管理アーム \(CMA\) の取り付け」](#)を参照してください。

1. 端末または端末エミュレータ (PC またはワークステーション) をサービスプロセッサのシリアル管理ポートに接続します。

端末または端末エミュレータは次の設定で構成します。

- 9600 ボー
- 8 ビット
- パリティなし
- 1 ストップビット
- ハンドシェイクなし

ヌルモデム構成が必要です。つまり、DTE 間の通信で送受信の信号が逆になるようにクロスされます。標準の RJ-45 ケーブルとともに付属の RJ-45 クロスアダプタを使用して、ヌルモデム構成を実現できます。

---

注 – サーバにはじめて電源を入れるときに端末または端末エミュレータ (PC またはワークステーション) がサービスプロセッサのシリアル管理ポートに接続されていないと、システムメッセージを確認できません。

---

2. (省略可能) サーバの Net MGT ポート (29 ページの「[図: サーバの背面パネルの接続](#)」) と、SP およびホストにあとで接続されるネットワークとを Ethernet ケーブルで接続します。

SP SER MGT ポートを使用してシステムの初期構成を行なったあと、通常、SP およびホストとの通信はこの Ethernet インタフェースを介して行われます。

3. サーバの NET ポート (29 ページの「[図: サーバの背面パネルの接続](#)」) の 1 つとサーバが通信するネットワークとを Ethernet ケーブルで接続します。

4. 電源コードを電源装置と電源に差し込みます。

---

注 – 動作に必要な電源接続は 2 つのみです。冗長性を実現するために、4 つの電源接続と 2 つの個別の回路を使用してください。

---

サービスプロセッサは、3.3 V のスタンバイ電圧で動作します。システムに AC 電源が接続されるとすぐに、サービスプロセッサの電源が入り、診断が実行されて、ILOM ファームウェアが初期化されます。

数分後、SP ログインプロンプトが端末デバイスに表示されます。ホストは初期化されていないか、まだ電源が入っていません。

5. 端末デバイスで、パスワード `changeme` を使用して、`root` として SP にログインします。

```
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX login: root
Password: changeme
. . .
->
```

しばらくすると、SP プロンプト (->) が表示されます。この時点で、**Integrated Lights Out Manager** インタフェースを使用して実行できるコマンドは多数あります。

パスワードの変更方法、SP ネットワークパラメータの設定方法など、その他の SP に関する情報はオンラインドキュメントセットで参照できます。

6. サーバの電源を入れ、シリアル端末デバイスに表示するようにホスト出力をリダイレクトします。

```
-> start /SYS
Are you sure you want to start /SYS (y/n)? y
-> start /SP/console
Are you sure you want to start /SP/CONSOLE (y/n)? y
Serial console started. To stop, type #.
. . .
```

SP コンソールを起動したあと、サーバの初期化が完了するまでに約 20 分かかります。

7. プロンプトが表示されたら、ホストで Solaris オペレーティングシステムを構成するための画面上の手順に従って、次の構成情報を入力します。

構成の確認を求めるプロンプトが数回表示されるため、そこで確認と変更を行うことができます。特定の値に応答する方法が不明である場合は、デフォルトを受け入れて、あとで Solaris OS が実行しているときに変更することができます。初期構成中に指定する必要がある Solaris OS パラメータについては、[36 ページの「表: Solaris OS 構成に関する参照情報」](#)を参照してください。

8. サーバにログインし、機能を調査します。

システムの機能を確認するために使用できるコマンドは多数あります。そのうちの一部を次に示します。

- `showrev` - ホスト名およびシステムアーキテクチャー情報を表示します。このコマンドに `-a` オプションを指定すると、インストールされているパッチを確認できます。
- `psrinfo` - ホストのプロセッサおよびコアの番号と状態に関する情報を表示します。

- prtdiag - システム構成および診断情報を表示します。  
詳細は、Solaris OS のマニュアルページおよびドキュメントを参照してください。

## Solaris OS のホスト構成に関する参照情報

36 ページの「表: Solaris OS 構成に関する参照情報」に、Solaris OS の初期構成中に指定する必要がある構成パラメータについて説明します。

表: Solaris OS 構成に関する参照情報

| パラメータ                       | 説明  |
|-----------------------------|---|
| Language                    | 表示された言語の一覧から番号を選択します。   |
| Locale                      | 表示された地域の一覧から番号を選択します。   |
| Terminal Type               | 使用している端末デバイスに対応する端末のタイプを選択します。  |
| Network?                    | 「Yes」を選択します。  |
| Multiple Network Interfaces | 構成する予定のネットワークインタフェースを選択します。構成するネットワークインタフェースが不明である場合は、一覧の先頭のネットワークインタフェースを選択します。                    |
| DHCP?                       | 使用しているネットワーク環境に従って、「Yes」または「No」を選択します。  |
| Host Name                   | サーバのホスト名を入力します。   |
| IP Address                  | この Ethernet インタフェースの IP アドレスを入力します。   |
| Subnet?                     | 使用しているネットワーク環境に従って、「Yes」または「No」を選択します。  |
| Subnet Netmask              | Subnet? で「Yes」を選択した場合は、使用しているネットワーク環境のサブネットのネットマスクを入力します。   |
| IPv6?                       | IPv6 を使用するかどうかを指定します。IPv6 を使用するかどうか不明である場合は、「No」を選択して IPv4 用の Ethernet インタフェースを構成します。               |
| Security Policy             | 標準の UNIX セキュリティ (No) または Kerberos セキュリティ (Yes) のいずれかを選択します。セキュリティが不明である場合は、「No」を選択します。              |
| Confirm                     | 画面上の情報を確認し、必要に応じて変更します。それ以外の場合は、処理を続行します。   |
| Name Service                | 使用しているネットワーク環境に応じて、ネームサービスを選択します。<br>注 - 「None」以外のネームサービスを選択すると、追加のネームサービスの構成情報の入力を求めるプロンプトが表示されます。 |
| NFSv4 Domain Name           | 使用している環境に応じて、ドメイン名構成のタイプを選択します。ドメイン名構成が不明である場合は、「Use the NFSv4 domain derived by the system」を選択します。 |
| Time Zone (Continent)       | 該当する大陸を選択します。   |

表: Solaris OS 構成に関する参照情報

---

|                               |   |
|-------------------------------|---|
| Time Zone (Country or Region) | 該当する国または地域を選択します。   |
| Time Zone                     | タイムゾーンを選択します。   |
| Date and Time                 | デフォルトの日付と時刻を受け入れるか、値を変更します。   |
| root Password                 | root のパスワードを 2 回入力します。このパスワードは、このサーバの Solaris OS のスーパーユーザーアカウント用です。このパスワードは、SP のパスワードではありません。 |

---

### 関連情報

- 『SPARC Enterprise T5440 サーバアドミニストレーションガイド』
- [29 ページの「背面パネルのケーブル接続に関する参照情報」](#)
- [37 ページの「サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを使用可能にする方法」](#)
- [39 ページの「サービスプロセッサへのログイン」](#)
- [45 ページの「一般的な処理でのサービスプロセッサの使用」](#)
- [49 ページの「Solaris オペレーティングシステムの起動」](#)

---

## サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを使用可能にする方法

ネットワークで DHCP を使用しないかぎり、サービスプロセッサのネットワーク管理ポートは動作しません。DHCP を使用すると、構成は自動的に行われます。

---

| 作業                             | リンク  |
|--------------------------------|--|
| サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを使用可能にする。 | <a href="#">38 ページの「DHCP を使用して、サービスプロセッサのネットワーク管理ポートをネットワークで使用可能にする」</a><br><a href="#">39 ページの「静的 IP アドレスを使用して、サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを使用可能にする」</a> |

---

### 関連情報

- [39 ページの「サービスプロセッサへのログイン」](#)
- [45 ページの「一般的な処理でのサービスプロセッサの使用」](#)

- 29 ページの「背面パネルのケーブル接続に関する参照情報」

## ▼ DHCP を使用して、サービスプロセッサのネットワーク管理ポートをネットワークで使用可能にする

- ネットワークで DHCP を使用している場合は、次のコマンドを実行してサーバのネットワーク構成情報を表示できます。

```
-> show /SP/network
```

次に例を示します。

```
-> show /SP/network

/SP/network
  Targets:

  Properties:
    commitpending = (Cannot show property)
    dhcp_server_ip = 10.8.31.5
    ipaddress = 10.8.31.188
    ipdiscovery = dhcp
    ipgateway = 10.8.31.248
    ipnetmask = 255.255.252.0
    macaddress = 00:14:4F:7E:83:4F
    pendingipaddress = 10.8.31.188
    pendingipdiscovery = dhcp
    pendingipgateway = 10.8.31.248
    pendingipnetmask = 255.255.252.0
    state = enabled

  Commands:
    cd
    set
    show
```

## ▼ 静的 IP アドレスを使用して、サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを使用可能にする

ネットワークで DHCP を使用しない場合は、サービスプロセッサのネットワーク設定を構成するまで、ネットワーク管理ポートは動作しません。次の手順に従って、サービスプロセッサを設定します。

1. サービスプロセッサの起動後に、シリアル管理ポートを介して ILOM CLI にアクセスします。44 ページの「ネットワーク管理ポートを使用して、サービスプロセッサにログインする」を参照してください。
2. サービスプロセッサを構成します。41 ページの「サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを構成する」を参照してください。
3. サービスプロセッサのパラメータに対する変更を確定します。41 ページの「サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを構成する」の手順 4 を参照してください。

### 次の手順

これで、ネットワーク管理ポートを使用して、いつでもサービスプロセッサにアクセスすることができます。44 ページの「ネットワーク管理ポートを使用して、サービスプロセッサにログインする」を参照してください。

---

## サービスプロセッサへのログイン

システムの取り付け後にはじめてシステムの電源を入れる場合は、サービスプロセッサのシリアルポートを使用して、システムの電源を入れて POST を実行します。40 ページの「シリアル管理ポートを使用して、サービスプロセッサにログインする」を参照してください。

ネットワーク管理ポートがすでに設定されている場合は、シリアル管理ポートの代わりにネットワーク管理ポートを使用できます。[44 ページの「ネットワーク管理ポートを使用して、サービスプロセッサにログインする」](#)を参照してください。

| 作業  | リンク  |
|---|--|
| 初期構成でシリアル管理ポートを使用する。                                | <a href="#">40 ページの「シリアル管理ポートを使用して、サービスプロセッサにログインする」</a>   |
| Ethernet 接続を使用してシステムを遠隔から管理できるように、ネットワーク管理ポートを設定する。 | <a href="#">41 ページの「サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを構成する」</a>        |
| ネットワーク管理ポートを使用して、サービスプロセッサにログインする。                  | <a href="#">44 ページの「ネットワーク管理ポートを使用して、サービスプロセッサにログインする」</a> |

## 関連情報

- [33 ページの「ILOM サービスプロセッサの概要」](#)
- 『SPARC Enterprise T5440 サーバアドミニストレーションガイド』
- 『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル SPARC Enterprise T5440 サーバ』

## ▼ シリアル管理ポートを使用して、サービスプロセッサにログインする

サービスプロセッサが起動したら、ILOM CLI にアクセスして、システムの設定および管理を行います。サービスプロセッサをはじめて起動したときに、ILOM CLI プロンプト (->) が表示されます。デフォルトの設定では、root という ILOM CLI ユーザーアカウントが提供されています。デフォルトの root のパスワードは、*changeme* です。サービスプロセッサの ILOM CLI の password コマンドを使用してパスワードを変更してください。

1. システムにはじめて電源を入れた場合は、password コマンドを使用して root のパスワードを変更します。

```
...
Starting OpenBSD Secure Shell server: sshd.
Starting Servicetags listener: stlistener.
Starting FRU update program: frutool.

hostname login: root
Password: changeme

...
```

```
Federal Acquisitions: Commercial Software -- Government Users
Subject to Standard License Terms and Conditions.
...

Warning: password is set to factory default.

-> set /SP/users/root password
Enter new password: *****
Enter new password again: *****

->
```

---

注 – root のパスワードを設定すると、それ以降の再起動では ILOM CLI ログインプロンプトが表示されます。

---

2. ログイン名として root を入力し、続けてパスワードを入力します。

```
...
hostname login: root
Password: password (nothing displayed)
Waiting for daemons to initialize...

Daemons ready

Integrated Lights Out Manager

Version 2.0.0.0

->
```

## ▼ サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを構成する

---

注 – 使用しているネットワークで DHCP が使用できる場合、この構成ははじめてシステムを起動するときに自動的に実行されます。

---

この手順は、次の条件に該当する場合にのみ実行してください。

- 使用しているネットワークで DHCP が使用できない場合。
- ILOM サービスプロセッサのネットワーク管理ポートの設定を変更する必要がある場合。

この手順では、シリアル管理ポートを使用して ILOM サービスプロセッサに接続し、ネットワーク管理ポートを手動で再構成します。

---

注 – ILOM の構成の詳細は、『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル SPARC Enterprise T5440 サーバ』を参照してください。

---

1. 使用しているネットワーク構成の詳細に従って、次のネットワークパラメータを設定します。
  - /SP/network state – サービスプロセッサがネットワーク上に存在するかどうかを指定
  - /SP/network pendingipaddress – サービスプロセッサの IP アドレス
  - /SP/network pendingipgateway – サブネットのゲートウェイの IP アドレス
  - /SP/network pendingipnetmask – サービスプロセッササブネットのネットマスク
  - /SP/network pendingipdiscovery – サービスプロセッサが DHCP と静的 IP アドレス割り当てのどちらを使用するかを指定
  - /SP/network commitpending – 保留の設定を使用するようにサービスプロセッサを確定

これらのパラメータの設定には、set コマンドを使用します。使用法は、次のとおりです。

```
set target property=value
```

たとえば、target が /SP/network で、property=value が pendingipaddress=xxx.xxx.xxx.xxx となります。

2. ネットワーク管理者から入手した情報を使用して、サービスプロセッサを構成します。

次のいずれかを選択します。

- dhcp – 動的に作成された IP 構成を使用してネットワーク接続を設定します。
  - static – 静的 IP 構成を使用してネットワーク接続を設定します。
- a. 動的に作成された IP アドレスを使用する (DHCP を使用してネットワーク設定を取得する) 場合は、pendingipdiscovery を dhcp に設定します。

```
-> set /SP/network pendingipdiscovery=dhcp  
Set 'pendingipdiscovery' to 'dhcp'
```

- b. 静的 IP 構成を使用する場合は、パラメータ pendingipdiscovery、pendingipaddress、pendingipgateway、および pendingipnetmask を、次のように設定します。

- i. サービスプロセッサを設定します。

```
-> set /SP/network pendingipdiscovery=static
Set 'pendingipdiscovery' to 'static'
```

- ii. 静的 IP アドレスを受け入れます。
- iii. サービスプロセッサの IP アドレスを設定します。

```
-> set /SP/network pendingipaddress=service-processor-IPAddr
Set 'pendingipaddress' to 'service-processor-IPAddr'
```

- iv. サービスプロセッサゲートウェイの IP アドレスを設定します。

```
-> set /SP/network pendingipgateway=gateway-IPAddr
Set 'pendingipgateway' to 'gateway-IPAddr'
```

- v. サービスプロセッサのネットマスクを設定します。

```
-> set /SP/network pendingipnetmask=255.255.255.0
Set 'pendingipnetmask' to '255.255.255.0'
```

この例では、255.255.255.0 を使用してネットマスクを設定します。ご使用のネットワーク環境のサブネットでは、異なるネットマスクが必要になる場合があります。使用している環境にもっとも適したネットマスク番号を使用してください。

3. show /SP/network コマンドを使用して、パラメータが適切に設定されたことを確認します。

次の例に、サービスプロセッサを DHCP 構成から静的構成に変換するように設定されたパラメータを示します。

```
-> show /SP/network
/SP/network
Targets:
Properties:
  commitpending = (Cannot show property)
  dhcp_server_ip = xxx.xxx.xxx.xxx
  ipaddress = xxx.xxx.xxx.xxx
  ipdiscovery = dhcp
  ipgateway = xxx.xxx.xxx.xxx
  ipnetmask = 255.255.252.0
  macaddress = 00:14:4F:3F:8C:AF
  pendingipaddress = xxx.xxx.xxx.xxx
  pendingipdiscovery = static
```

```
pendingipgateway = xxx.xxx.xxx.xxx
pendingipnetmask = 255.255.255.0
state = enabled
Commands:
  cd
  set
  show
```

->

---

注 – 構成パラメータを設定したあとで、`set /SP/network commitpending=true` コマンドを入力して新しい値を有効にしてください。

---

4. サービスプロセッサのネットワークパラメータに対する変更を確定します。

```
-> set /SP/network commitpending=true
Set 'commitpending' to 'true'
```

---

注 – `set /SP/network commitpending=true` コマンドを実行したあとで、`show /SP/network` コマンドを再度実行すると、パラメータが更新されたことを確認できます。

---

## ▼ ネットワーク管理ポートを使用して、サービスプロセッサにログインする

---

注 – ネットワーク管理ポートを使用する前に、[41 ページの「サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを構成する」](#)を参照して、サービスプロセッサのパラメータを設定する必要があります。

---

- SSH セッションを開き、ネットワークアドレスを指定してサービスプロセッサに接続します。

```
% ssh root@xx.xxx.xx.x
...
Are you sure you want to continue connecting (yes/no)? yes
...
Password: password (nothing displayed)
Waiting for daemons to initialize...

Daemons ready
```

```
Integrated Lights Out Manager
```

```
Version 2.0.0.0
```

```
->
```

## 一般的な処理でのサービスプロセッサの使用

| 作業                                   | リンク   |
|--------------------------------------|---|
| 遠隔でシステムに電源を入れる。                      | <a href="#">45 ページの「システムの電源を入れる」</a>                          |
| システムコンソールに接続する。                      | <a href="#">47 ページの「システムコンソールに接続する」</a>                       |
| -> プロンプトからシステムを初期化する。                | <a href="#">48 ページの「システムの正常な初期化を実行する」</a>                     |
| Solaris OS を起動する。                    | <a href="#">49 ページの「Solaris オペレーティングシステムを起動する」</a>            |
| Solaris OS を初期化せず電源を入れるようにシステムを構成する。 | <a href="#">50 ページの「起動時に Solaris オペレーティングシステムが起動しないようにする」</a> |
| -> プロンプトからシステムをリセットする。               | <a href="#">50 ページの「システムをリセットする」</a>                          |
| -> プロンプトから遠隔でシステムの電源を再投入する。          | <a href="#">51 ページの「システムの電源を再投入する」</a>                        |

### 関連情報

- [32 ページの「ILOM システムコンソールの概要」](#)
- 『SPARC Enterprise T5440 サーバアドミニストレーションガイド』

## ▼ システムの電源を入れる

1. 次の手順を実行して、障害がないことを確認します。

- a. 仮想キースイッチを `diag` モードに設定し、POST がサービスモードで実行されるようにします。

```
-> set /SYS keyswitch_state=diag
Set 'keyswitch_state' to 'diag'
```

- b. 電源投入シーケンスを開始するには、`start /SYS` コマンドを入力します。  
システムコンソールに ILOM CLI 警告メッセージが表示されます。このメッセージは、システムがリセットされたことを示しています。

```
-> start /SYS
Are you sure you want to start /SYS (y/n)? y
Starting /SYS

->
```

- c. システムコンソールに切り替えて、POST 出力を表示します。

```
-> start /SP/console
Are you sure you want to start /SP/console (y/n)? y
Serial console started. To stop, type #.
.
.
.
```

POST 出力で、可能性がある障害メッセージを監視します。次の出力は、POST で障害が検出されなかったことを示しています。

```
.
.
.
2007-12-14 16:34:53.385 0:1:0>INFO:
2007-12-14 16:34:53.391 0:1:0> POST Passed all devices.
2007-12-14 16:34:53.399 0:1:0>POST:      Return to VBSC.
2007-12-14 16:34:53.406 0:1:0>Master set ACK for vbsc runpost
command and spin.
...
SPARC Enterprise T5440, No Keyboard
...
OpenBoot 4.27.x, 3968 MB memory available, Serial #74409918.
Ethernet address 0:14:4f:6f:67:be, Host ID: 846f67be.

{8} ok
```

2. コンソールのエスケープシーケンス (デフォルトでは、#. (ハッシュ記号とピリオド)) を入力して、ILOM プロンプトに戻ります。
3. 次のコマンドを使用して、POST の実行結果を確認します。

```
-> show /SP/faultmgmt -level all
```

---

注 – ILOM の構成、POST 変数、および POST で障害が検出されたかどうかに応じて、サーバが起動する場合と、システムが ok プロンプトで待機する場合があります。システムで ok プロンプトが表示されている場合は、boot と入力します。

---

4. システムの電源が入り、起動プロセスを開始できるように、set /SYS keyswitch\_state=normal コマンドを使用して、仮想キースイッチを通常モード (デフォルト) に戻します。

```
-> set /SYS keyswitch_state=normal
Set 'keyswitch_state' to 'normal'
```

## ▼ システムコンソールに接続する

POST、OpenBoot、および Solaris OS からの出力は、サービスプロセッサのネットワークコンソールを使用してシステムコンソールに表示されます。

- start /SP/console コマンドを入力します。

コンソールには複数のユーザーが接続できますが、1 人のユーザーのみがセッションに参加することができます。

```
-> start /SP/console
Are you sure you want to start /SP/console (y/n)? y
Serial console started. To stop, type #.
```

---

注 – POST 出力の詳細は、『SPARC Enterprise T5440 サーバサービスマニュアル』を参照してください。

---

## ▼ システムの正常な初期化を実行する

1. `start /SYS` コマンドを入力します。

```
-> start /SYS
Are you sure you want to start /SYS (y/n)? y
Starting /SYS
```

2. 電源投入シーケンスを開始するには、`start /SP/console` コマンドを入力します。

システムコンソールに ILOM CLI 警告メッセージが表示されます。このメッセージは、システムがリセットされたことを示しています。

```
-> start /SP/console
Are you sure you want to start /SP/console (y/n)? y
Serial console started. To stop, type #.
```

CPU およびメモリーコントローラが初期化され、最後には OpenBoot が初期化されます。多くのシステムコンソールのメッセージが表示されたあとで、`ok` プロンプトが表示されるか、システムが Solaris OS で起動します。

---

注 – システムの動作は `auto-boot` 変数の設定方法によって異なります。詳細は、『SPARC Enterprise T5440 サーバサービスマニュアル』を参照してください。

---

次の出力例は、完全な出力の一部分です。

```
0:1:0>
0:1:0>SPARC-Enterprise[TM] T5440 POST 4.27.x.
2007/12/11 18:55

...

0:1:0>Network Interface Unit Tests....Done
0:1:0>Functional CPU Tests....Done
0:1:0>Extended Memory Tests....Done
2007-12-14 16:45:28.800 0:1:0>INFO:
2007-12-14 16:45:28.806 0:1:0> POST Passed all devices.
2007-12-14 16:45:28.816 0:1:0>POST:      Return to VBSC.
2007-12-14 16:45:28.824 0:1:0>Master set ACK for vbsc runpost
command and spin...

SPARC Enterprise T5440, No Keyboard
...
OpenBoot 4.27.x, 3968 MB memory available, Serial #74409918.
Ethernet address 0:14:4f:6f:67:be, Host ID: 846f67be.
```

```
{0} ok
```

## Solaris オペレーティングシステムの起動

Solaris OS は、スロット 0 のディスクでサーバにプリインストールされています。Solaris OS は構成されていません。つまり、出荷時に `sys-unconfig` コマンドが実行されています。このディスクからシステムを起動すると、使用している環境に合わせて Solaris OS を構成するように求めるプロンプトが表示されます。

### 関連情報

- [36 ページの「Solaris OS のホスト構成に関する参照情報」](#)
- 『SPARC Enterprise T5440 サーバアドミニストレーションガイド』

## ▼ Solaris オペレーティングシステムを起動する

1. `ok` プロンプトで、Solaris OS を含むディスクから起動します。
  - 起動のディスクがわかっている場合は、この手順をスキップして[手順 2](#)を実行します。
  - 起動元のディスクを判定する必要がある場合は、次のように `ok` プロンプトで `show-disks` コマンドを入力して、構成されているディスクのパスを確認します。

```
ok show-disks
a) /pci@0/pci@0/pci@2/scsi@0/disk0
b) /pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@1/pci@0/usb@0,2/storage@2/disk
q) NO SELECTION Enter Selection, q to quit: q
ok
```

2. ok プロンプトで boot コマンドを入力します。

手順 1 の値を使用して、boot コマンドを作成します。ディスクパスにはターゲットを追加します。

次の例では、サーバを SPARC Enterprise T5440 サーバ上のディスク 0 (ゼロ) から起動しています。

```
ok boot disk0

Boot device: /pci@0/pci@0/pci@2/scsi@0/disk@0 File and args:
SunOS Release 5.10 Version Generic_127127-03 64-bit
...
Use is subject to license terms.
Hostname: hostname
NIS domain name is x.x.x.x

hostname console login:
```

## ▼ 起動時に Solaris オペレーティングシステムが起動しないようにする

ハードドライブ HDD0 には、Solaris OS がプリインストールされています。

- プリインストールされている OS を起動する必要がある場合には、OpenBoot PROM パラメータ auto-boot? を false に設定します。次に例を示します。

```
-> set /HOST/bootmode script="setenv auto-boot? false"
```

## ▼ システムをリセットする

- システムをリセットする必要がある場合は、shutdown -g0 -i6 -y コマンドを使用します。

```
# shutdown -g0 -i6 -y
```

システムを単にリセットする場合は、システムの電源の再投入は必要はありません。

## ▼ システムの電源を再投入する

単純なリセットでシステムの問題が解決されない場合は、次の手順に従ってシステムの電源を再投入します。

### 1. Solaris OS を停止します。

Solaris OS プロンプトで、`shutdown -g0 -i0 -y` コマンドを入力します。その後、プロンプトが表示されたら `o` を入力して Solaris OS を停止し、`ok` プロンプトに戻ります。

```
# shutdown -g0 -i0 -y
# svc.startd: The system is coming down. Please wait.
svc.startd: 91 system services are now being stopped.
Jun 12 19:46:57 wgs40-58 syslogd: going down on signal 15
svc.startd: The system is down.
syncing file systems... done
Program terminated
r)ebboot, o)k prompt, h)alt?
```

### 2. コンソールのエスケープシーケンス (デフォルトでは、`#.` (ハッシュ記号とピリオド)) を実行して、システムコンソールプロンプトからサービスプロセッサコンソールプロンプトに切り替えます。

```
ok #.
->
```

### 3. ILOM CLI を使用して、`stop /SYS` コマンドを入力し、システムを正常に停止します。

```
-> stop /SYS
Are you sure you want to stop /SYS (y/n)? y
Stopping /SYS
->
```

---

**注** – ただちに異常な方法での停止を実行するには、`stop -force -script /SYS` コマンドまたは `stop -script /SYS` コマンドを使用してください。これらのコマンドはただちにすべてを停止し、コマンドが入力される前のすべてのデータが確実に保存されます。

---

4. `start /SYS` コマンドを入力します。

```
-> start /SYS
Are you sure you want to start /SYS (y/n)? y
Starting /SYS

->
```

---

注 – 電源投入シーケンスを強制的に行うには、`start -script /SYS` コマンドを使用します。

---

5. `start /SP/console` コマンドを使用して、システムコンソールに再度接続します。

```
-> start /SP/console
Are you sure you want to start /SP/console (y/n)? y
Serial console started. To stop, type #.
```

さまざまなメッセージのあとに `ok` プロンプトが表示されます。

## 関連情報

はじめてシステムに電源を入れたあとは、Sun Validation Test Suite (SunVTS™) ソフトウェアを使用して、取り付けられているコンポーネントの機能およびパフォーマンスや、ネットワーク接続を確認できます。詳細は、(<http://www.sun.com/documentation>) で SunVTS のドキュメントを参照してください。

ILOM サービスプロセッサの使用に関する詳細は、『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル SPARC Enterprise T5440 サーバ』を参照してください。

サーバの構成に関する詳細は、『SPARC Enterprise T5440 サーバアドミニストレーションガイド』を参照してください。

オプションのコンポーネントの追加に関する詳細は、『SPARC Enterprise T5440 サーバサービスマニュアル』を参照してください。

# ファームウェアの更新

---

この付録では、SP ファームウェアを更新する方法について説明します。

| 項目   | リンク   |
|--|---|
| flashupdate コマンドを使用した、サーバファームウェアおよび ILOM ファームウェアの両方の更新 | <a href="#">53 ページの「サービスプロセッサおよびサーバのファームウェアの更新」</a> |
| ファームウェア更新後のサービスプロセッサの再起動                               | <a href="#">54 ページの「ファームウェアの更新」</a>                 |

---

---

## サービスプロセッサおよびサーバのファームウェアの更新

flashupdate コマンドを使用して、サービスプロセッサファームウェアおよびサーバファームウェアの両方を更新します。

フラッシュイメージは、次のコンポーネントで構成されます。

- サービスプロセッサファームウェア
- OpenBoot
- POST
- Reset/config
- シーケンサ
- パーティションの説明

---

# ファームウェアの更新

以降のファームウェアリリースでの機能や修正を使用するには、[54 ページの「ファームウェアを更新する」](#)を実行します。

## ▼ ファームウェアを更新する

1. ILOM サービスプロセッサのネットワーク管理ポートが構成されていることを確認します。

この構成は、ネットワークを介して新しいフラッシュイメージにアクセスするために必要になります。[41 ページの「サービスプロセッサのネットワーク管理ポートを構成する」](#)を参照してください。

2. SSH セッションを開き、サービスプロセッサに接続します。

```
% ssh root@xx.xxx.xx.x
...
Are you sure you want to continue connecting (yes/no)? yes
...
Password: password (nothing displayed)
Waiting for daemons to initialize...

Daemons ready

Integrated Lights Out Manager

Version 2.0.0.0

->
```

3. ホストの電源が切断されていることを確認します。

ホストの電源が切断されていない場合は、`stop /SYS` コマンドを入力してください。

```
-> stop /SYS
```

4. `keyswitch_state` パラメータが `normal` に設定されていることを確認します。

```
-> set /SYS keyswitch_state=normal
```

## 5. load コマンドを入力します。

load コマンドは、サービスプロセッサのフラッシュイメージおよびホストファームウェアを更新します。load コマンドには、次の情報が必要です。

- フラッシュイメージにアクセスできる、ネットワーク上の TFTP サーバの IP アドレス
- IP アドレスがアクセスできる、フラッシュイメージのフルパス名  
このコマンドの使用法は、次のとおりです。

```
load [-script] -source tftp://xxx.xxx.xx.xx/pathname
```

ここでは、次のように指定します。

- -script - 確認のプロンプトを表示せずに、yes が指定されたものとして動作する
- -source - フラッシュイメージの IP アドレスおよびフルパス名 (URI) を指定する

```
-> load -source tftp://xxx.xxx.xx.xx/pathname
```

```
NOTE: A firmware upgrade will cause the server and ILOM to
      be reset. It is recommended that a clean shutdown of
      the server be done prior to the upgrade procedure.
      An upgrade takes about 6 minutes to complete. ILOM
      will enter a special mode to load new firmware. No
      other tasks can be performed in ILOM until the
      firmware upgrade is complete and ILOM is reset.
```

```
Are you sure you want to load the specified file (y/n)? y
```

```
Do you want to preserve the configuration (y/n)? y
```

```
.....
```

```
Firmware update is complete.
```

```
ILOM will now be restarted with the new firmware.
```

```
Update complete. Reset device to use new image.
```

```
->
```

フラッシュイメージが更新されたあとに、システムが自動的にリセットされます。

サービスプロセッサがリセットされ、診断が実行されます。その後、次の例と同様にシリアルコンソールのログインプロンプトに戻ります。

```
U-Boot 1.1.1 (May 23 2007 - 21:30:12)
```

```
...
```

```
POST cpu PASSED
```

```
POST ethernet PASSED
```

```
Hit any key to stop autoboot: 0
```

```
## Booting image at fe080000 ...

IP Protocols: ICMP, UDP, TCP, IGMP

Checking all file systems...
fsck 1.37 (21-Mar-2005)
Setting kernel variables ...
... done.
Mounting local filesystems...
Cleaning /tmp /var/run /var/lock.

Identifying DOC Device Type(G3/G4/H3) ...
OK

Configuring network interfaces...Internet Systems Consortium DHCP
Client V3.0.1
Copyright 2007 Internet Systems Consortium.
All rights reserved.
For info, please visit http://www.isc.org/products/DHCP

eth0: config: auto-negotiation on, 100FDX, 100HDX, 10FDX, 10HDX.
Listening on LPF/eth0/00:14:4f:3f:8c:af
Sending on LPF/eth0/00:14:4f:3f:8c:af
Sending on Socket/fallback
DHCPDISCOVER on eth0 to 255.255.255.255 port 67 interval 6
eth0: link up, 100 Mbps Full Duplex, auto-negotiation complete.
DHCPDISCOVER on eth0 to 255.255.255.255 port 67 interval 15
Hostname: hostname.
Starting portmap daemon: portmap.
Initializing random number generator...done.
INIT: Entering runlevel: 3
Starting system log daemon: syslogd and klogd.
Starting periodic command scheduler: cron.
Starting IPMI Stack..... Done.
Starting OpenBSD Secure Shell server: sshd.
Starting Servicetags listener: stlistener.
Starting FRU update program: frutool.

hostname login:
```

# 起動デバイスの選択

---

ここでは、起動デバイスを選択する方法について説明します。

---

## 起動デバイスの選択

起動デバイスは、OpenBoot 構成変数 `boot-device` の設定によって指定されます。この変数のデフォルト設定は、`disk net` です。この設定によって、ファームウェアは最初にシステムハードドライブからの起動を試みます。この起動が失敗すると、システムボード上の NET0 ギガビット Ethernet インタフェースからの起動を試みます。

この手順は、OpenBoot ファームウェアに関する知識があり、OpenBoot 環境の起動方法を理解していることを前提としています。詳細は、『SPARC Enterprise T5440 サーバアドミニストレーションガイド』を参照してください。

---

**注** – シリアル管理ポートは、デフォルトのシステムコンソールポートとして事前構成されています。

---

ネットワークから起動する場合は、ネットワークへのネットワークインタフェースを接続する必要があります。

## ▼ 起動デバイスを選択する

- ok プロンプトで、次のように入力します。

```
ok setenv boot-device device-specifier
```

*device-specifier* には、次のいずれかの値を指定します。

- *cdrom* – DVD ドライブを指定する
- *disk* – システム起動ディスク (デフォルトでは内蔵ディスク 0) を指定する
- *disk0* – 内蔵ドライブ 0 を指定する
- *disk1* – 内蔵ドライブ 1 を指定する
- *disk2* – 内蔵ドライブ 2 を指定する
- *disk3* – 内蔵ドライブ 3 を指定する
- *net*, *net0*, *net1*, *net2*, *net3* – ネットワークインタフェースを指定する
- *full path name* – デバイスまたはネットワークインタフェースをフルパス名で指定する

---

注 – Solaris OS は、*boot-device* の変数をエイリアス名ではなくフルパス名に変更します。デフォルト以外の *boot-device* の変数を選択すると、Solaris OS では起動デバイスのフルデバイスパスが指定されます。

---

---

注 – 起動されるプログラムの名前とともに、起動プログラムの動作方法を指定できます。詳細は、使用している特定の Solaris OS リリースに関する OpenBoot Collection AnswerBook の『OpenBoot 4.x Command Reference Manual』を参照してください。

---

システムボード上の **Ethernet** インタフェース以外のネットワークインタフェースをデフォルトの起動デバイスとして指定する場合は、次のいずれかのコマンドを入力して、各インタフェースのフルパス名を確認することができます。

```
ok show-devs  
ok show-nets
```

*show-devs* コマンドによってシステムデバイスが一覧表示され、各 PCI デバイスのフルパス名が表示されます。

# 索引

---

## 記号

#. エスケープシーケンス、システムコンソール  
、51

## A

admin ログイン、パスワードの設定, 40

## C

console コマンド, 52

## D

DB\_9 TTY コネクタ, 6

DHCP 構成, 38

## I

### ILOM

コマンド行へのアクセス, 39

ILOM コマンド行へのアクセス, 39

IP アドレス, 3

## L

LED、ポート、およびスロットの図, 29

## P

password コマンド, 40

poweroff コマンド, 51

poweron コマンド, 46, 48

## R

RJ-45 ケーブル, 5

## S

SER MGT シリアル管理ポートでのモデムの使用不可, 27

set コマンド, 42

show /SP/network コマンド, 43

show-disks コマンド, 49

### Solaris OS

起動, 49

起動時の起動の回避, 50

Solaris メディアキットの内容, 4

## T

TTYA シリアルポート, 6

## U

uadmin コマンド, 50, 51

## あ

アドレス、IP, 3

アドレス、Web、「Web サイト」を参照

## う

失われたメッセージ、端末が接続されていない場合  
、6

## え

エスケープシーケンス #.、システムコンソール  
、 51

## お

オプションのコンポーネント、サービスマニュアル  
の取り付け手順、 5

## き

起動

OpenBoot PROM boot コマンド、 50  
システムの起動、 31

## け

ゲートウェイの IP アドレス、 3

ケーブル

シリアルデータケーブル用のアダプタ、 27  
接続、 26

ケーブル管理アーム、 22

ケーブル管理固定部品、説明、 8

## こ

構成、ネットワーク管理ポート、 37

互換性のあるラック、 9

コマンド

set /SP/network、 43  
set /SYS keyswitch\_state、 46、 47  
show /SP/faultmgt、 47  
show /SP/network、 43  
show-disks、 49  
start /SP/console、 46  
start /SYS、 46

コマンド行へのアクセス、ILOM、 39

コンソールのエスケープシーケンス、 47

## さ

サーバの取り外し、 22

サービスプロセッサ

DHCP 構成、 38  
set コマンド、 42  
システムコンソールへの接続、 47  
システムの正常な初期化の実行に使用、 48  
システムの電源投入、 45  
システムの電源投入に使用、 45

シリアル管理ポートを使用したアクセス、 40

シリアル管理ポートを使用したログイン、 40

静的 IP アドレスの構成、 39

ネットワーク管理ポート、 41

ネットワーク管理ポートは構成後に動作可能、 4

ネットワーク管理ポートを使用したアクセス  
、 44

ネットワーク管理ポートを使用したログイン  
、 44

はじめての電源投入、 33

サービスプロセッサへのログイン

シリアル管理ポートの使用、 39、 40

ネットワーク管理ポートの使用、 39、 44

最小限のケーブル接続、 5

## し

システムコンソールのエスケープシーケンス  
#.、 51

システムコンソール

サービスプロセッサを使用した接続、 47

システムコンソールへの接続、 47

システムの初期化、 48

システムの初期化、正常、 48

システムの電源の再投入、 51

システムのリセット、 50

使用可能への切り替え、ネットワーク管理ポート  
、 37

シリアル管理ポート、 40

シリアルケーブル用のアダプタ、 27

シリアル端末

設定、 34

診断、実行時、 34

## す

スタンバイ電圧、 3.3V、 34

スタンバイ電圧によるサービスプロセッサの電源投  
入、 3

スタンバイモード、 28

スタンバイモード、AC の接続時、 6

ストップビット、 34

スロット、ポート、および LED の図、 29

## せ

- 静的 IP アドレス
  - サービスプロセッサの構成, 39

## て

- 電源投入
  - サービスプロセッサを使用, 45
- 電源の再投入, 51

## と

- 取り付け手順、オプションのコンポーネント、参照, 5

## ね

- ネットマスク, 3
- ネットワーク管理ポート
  - 構成, 41
  - 構成および使用可能への切り替え, 37
  - 構成後に動作可能, 4, 37
  - ログインに使用, 44

## は

- はじめての AC 電源, 32
- はじめてのシステムの電源投入, 32
- 場所、ポート、スロット、および LED (図), 29
- パリティなし、シリアル端末, 34
- ハンドシェークなし、シリアル端末, 34

## ひ

- ビット設定、シリアル端末, 34
- 必要な構成情報, 3

## ふ

- フルディスクパスの例, 50

## ほ

- ポート、スロット、および LED の図, 29
- ポートの場所の図, 29
- ボーレート、シリアル端末, 34
- ボタン、「スライドレール構成部品のロック」を参照, 13
- ホットプラグ対応 USB ポート, 6

## め

- メッセージは 60 秒後に失われる場合がある, 6

## よ

- 用語
  - スライドレール構成部品, 7

## ら

- ラック、互換性, 9
- ラックからのサーバの取り外し, 22

## り

- リセット
  - システムのリセット、uadmin コマンド, 50

## れ

- レバー、ロック、「スライドレール構成部品のロック」を参照, 13

## ろ

- ロック、「スライドレール構成部品のロック」を参照





FUJITSU